

教育を止めない

包摂的で質の高い
ジェンダー・トランスフォーメティブ
教育の支援策として
あらゆる状況下で期待できる
実践例集



目次

プラン・インターナショナルの包摂的で質の高い教育(IQE)への取り組み	3
IQE有望実践例集	4
有望実践例	6
有望実践例1: 学生クラブと安全な空間	6
有望実践例2: 継続的な専門能力開発	9
有望実践例3: 備え	13
有望実践例4: 質の高い学習環境	15
有望実践例5: 代替教育および非公式教育プログラム	17
有望実践例6: 学校全体での取り組み	20
有望実践例7: 教材と食料の配布	22
有望実践例8: 家族と保護者の教育への関与	24
有望実践例9: テクノロジー	26
ともに強く - 体化した総合的アプローチ	29

略語集

AE	加速教育	IQE	包摂的で質の高い教育
AOGDs	世界が抱える課題領域	LAs	学習アシスタント
APAC	アジア・太平洋地域	MEESA	中東、東・南アフリカ
ASRH	思春期の性と生殖に関する健康	MHM	月経衛生管理
CAY	子ども、思春期の若者、ユース	MHPSS	精神衛生と心理社会的支援
CC	気候変動	PfV	暴力からの保護
CCA	気候変動への適応	PSS	心理社会的支援
CE	コミュニティ教育者	PTA	保護者と教師の会
CFS	子どもにやさしい空間	ROA	南北アメリカ地域
CSE	包括的性教育	SIMs	自習教材
CPC	子ども保護委員会	SRHR	性と生殖に関する健康と権利
CPIE	緊急時における子どもの保護	STs	学生教師
CVA	現金とバウチャーによる支援	TLC	臨時学習センター
CwD	障害を持つ子ども	TSLA	教師の自習教室
DEOs	地域の教育担当官	ToT	指導者研修
DRM	災害リスク管理	TTC	教員養成学校
DRR	災害リスク軽減	WACA	西・中央アフリカ
ECD	乳幼児保育	WASH	水と衛生
EiE	緊急時の教育	WOPFSEF	女性の平和と安全フォーラム
GBV	ジェンダーに基づく暴力	YPEs	ユース・ピア・エデュケーター
GLTV	ガーナ教育テレビ		
GTE	ジェンダー・トランスフォーマティブ教育		

プラン・インターナショナルの 包摂的で質の高い教育 (IQE) への取り組み

プラン・インターナショナルは、子どもとユースの権利と、女の子とユース女性の平等の推進のために活動する独立した開発・人道支援団体である。プランの新しい世界戦略「**All Girls Standing Strong**」(2022~2027年)では、世界が抱える6つの課題領域(AOGDs)のひとつである、包摂的で質の高い教育に重点を置いている。プランは、すべてのAOGDにおける**プログラム・アドボカシー活動に地球規模**で取り組み、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチをとっている。

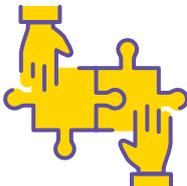
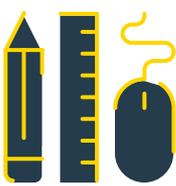
プランは、最も脆弱で取り残された子どもとユースのために、就学前、初等、中等教育レベルでIQEを提供することに重点を置き、特にこうした集団の女の子を優先した取り組みを組織的に展開している。これには、紛争地域やコミュニティが避難している場合など、開発と人道の両側面における正規、非正規、非公式の教育が含まれ、いかなる状況下であっても、教育を必要とする者に確実に教育が行き届くよう尽力している。

IQEとは、身体的、知的、社会的、情緒的、言語的能力にかかわらず、最も脆弱で疎外された子どもを含むすべての子どもたちが、あらゆる状況(開発、緊急事態、長期化する危機)において、ジェンダー・バイアス(ジェンダーの違いによる固定的な偏見)のない安全な環境で、平等かつ効果的に学び、参加できるよう支援されることを意味する。IQEでは、すべての子どもとユースに、前向きで生産的な生活を送るために必要なスキル、知識、態度、行動を提供する必要がある。



IQEを構成する中核的要素

以下の中核的要素は、IQEプログラム・アドボカシー活動の根幹となる。

 教育と学習	 不就学の子ども/ユース	 学校運営	 学校環境	 カリキュラムと学習教材
優先的な取り組み				
<ul style="list-style-type: none"> 学習者中心の包摂的な手法とジェンダーの視点に立った教育を行う能力と意識を身に着ける 社会的・情緒的学習/心理社会的支援(PSS) 個別の状況に合わせた様々な方法で、学校関連および学校を基盤とする災害リスク管理(DRM)に取り組む 学習環境の改善へ生徒の参加を後押しし、促す 	<ul style="list-style-type: none"> 編入プログラムや加速教育(AE)など、就学/再入学の仕組みを強化する 代替教育の機会をつくる支援を行い、質を強化する コミュニティ主導の教育の取り組みを推進・支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とリーダーの関与を含め、効果的で包摂的な学校運営を推進・支援する 国・地域の政策・計画・予算がジェンダーに配慮した、包摂的な内容になるよう働きかける 教育に影響を与える効果的な提携、連合、連携を促進する 学校および学校当局における参加型説明責任メカニズムを推進・支援する 	<ul style="list-style-type: none"> セーフガーディング能力、災害リスク軽減(DRR)を含め、通いやすく、保護され、安全な学校環境を支える 水と衛生(WASH)と月経衛生管理(MHM)を含むジェンダーの視点に立った包摂的な施設を促進・支援する あらゆる多様性を持つ子ども、思春期の若者、ユース(CAY)を平等に支援する意識と能力を身に着ける 	<ul style="list-style-type: none"> 包括的性教育(CSE)をカリキュラムに組み込み、教師が実施できるようにサポートを行う カリキュラムに災害リスク軽減(DRR)と気候変動への適応(CCA)の能力を組み込み、能力を身に着けさせる 紛争に配慮したプロセスと活動を取り入れ、実践する能力を身に着ける

IQE有望実践例集

本書は、あらゆる多様性を持つCAYが安全で高いレジリエンス（回復力）を持つジェンダー・トランスフォーマティブなIQEを継続的に受けるための支援策として期待できる活動例を集めたものである。目的は、教育部門で働くプラン・インターナショナルの職員と現場で活動に従事する者に、今後の活動に取り入れられる、エビデンスに基づくツールキットを提供することだ。より広い目的は、IQEプログラム実施に際して、何が効果的で、なぜ効果的なのかを明確にし、今後のヒントにすることである。

本書は、プラン・インターナショナルの教育に関する取り組み全体を通して、教育の継続性（混乱時における学習の継続、教育へのアクセスと（再）入学、より高い教育レベルへの移行）、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム（有害なジェンダー規範と慣行への対処と克服）、安全で強靱な学習環境（災害や混乱に対するレジリエンスがあり、暴力のない環境）、包摂（すべてのCAYの教育へのアクセスと定着）、質の高い教育（質の高い学習と教える機会）という柱となる重要テーマについて一貫してプラスの成果を示した活動を紹介している。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育（GTE）は、教育制度内のジェンダー格差に対処するだけではない。それは、教育が持つ潜在能力を最大限に活用して、教育制度の内外にある考え方と慣行を変革することである。これが、あらゆる多様性を持つCAYがより広くジェンダー公正を享受できる環境につながる¹。ジェンダー平等と社会変革を目指すトランスフォーメーションの歩みはわずかずつで、その道も複雑だ。本書で紹介する有望な多くの実践例

は、ジェンダーの視点に立つものである。トランスフォーメーションの旅を通してこうした要素が組み合わさることで、深く根付いた障壁が徐々に打ち破られ、時間をかけてジェンダー平等の実現へとつながる。

また、紹介された実践例のほとんどは、1つのプログラムの中で様々な形で組み合わせられたときに最も効果を発揮することにも留意すべきである。単独で成果が得られることを示すエビデンスはほとんどない。したがって、これらの実践例が核となって他の要素で互いに補いながら、安全で高いレジリエンスを持つ継続的でジェンダー・トランスフォーマティブなIQEを支援していくことができると考えるべきである。

実際、以下の表に見られるように、各実践例は柱となるテーマを幅広く支えている。これらの重要な柱は、各実践を紹介するページの[上隅に]表示されているアイコンでも見ることができる。あらゆる文脈で行われるプログラムにジェンダーを組み込むことは、包摂的で質の高い教育を支援するための基礎となる。有望な実践例全体を通して、ジェンダーへの配慮を含む説得力ある事例と事例研究が目立つ内容になっており、プラン・インターナショナルのジェンダー平等への専心が表れていると言える。

表1
主要な柱を支える有望な実践例のまとめ

	教育の継続性 	ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム 	安全で強靱な学習環境 	包摂 	質の高い教育 
学生クラブと安全な空間	✓	✓	✓	✓	
研修 - 教育者、コミュニティ・ボランティア、学校職員向け	✓	✓	✓	✓	✓
潜在的な混乱を想定した備え	✓		✓	✓	
学習環境の物理的改善	✓	✓	✓	✓	
代替教育および非公式教育プログラム	✓	✓		✓	✓
コミュニティ支援体制	✓	✓		✓	
教材と食料の配布	✓		✓	✓	
教育への家族の関与	✓				✓
テクノロジー	✓	✓	✓	✓	✓

1 GTEの詳細については、GTE Briefをご覧ください、GTE Eコースを受講ください。

本書の調査結果はすべて、プラン・インターナショナルの「あらゆる状況における教育継続性のメタ評価」のために実施された調査に基づいている。このメタ評価では、2017～2023年の間にプラン・インターナショナルの各地域で実施されたIQEと緊急時の教育(EiE)²に関する40のプログラム報告書(中東・東・南アフリカ(MEESA)から14、太平洋アジア地域(APAC)から13、西・中央アフリカ(WACA)から8、南北アメリカ地域(ROA)から4)を分析した。

本書の作成にあたり、さらに5つのプログラム文書(MEESAから1つ、APACから1つ、WACAから3つ)の評価が行われた。

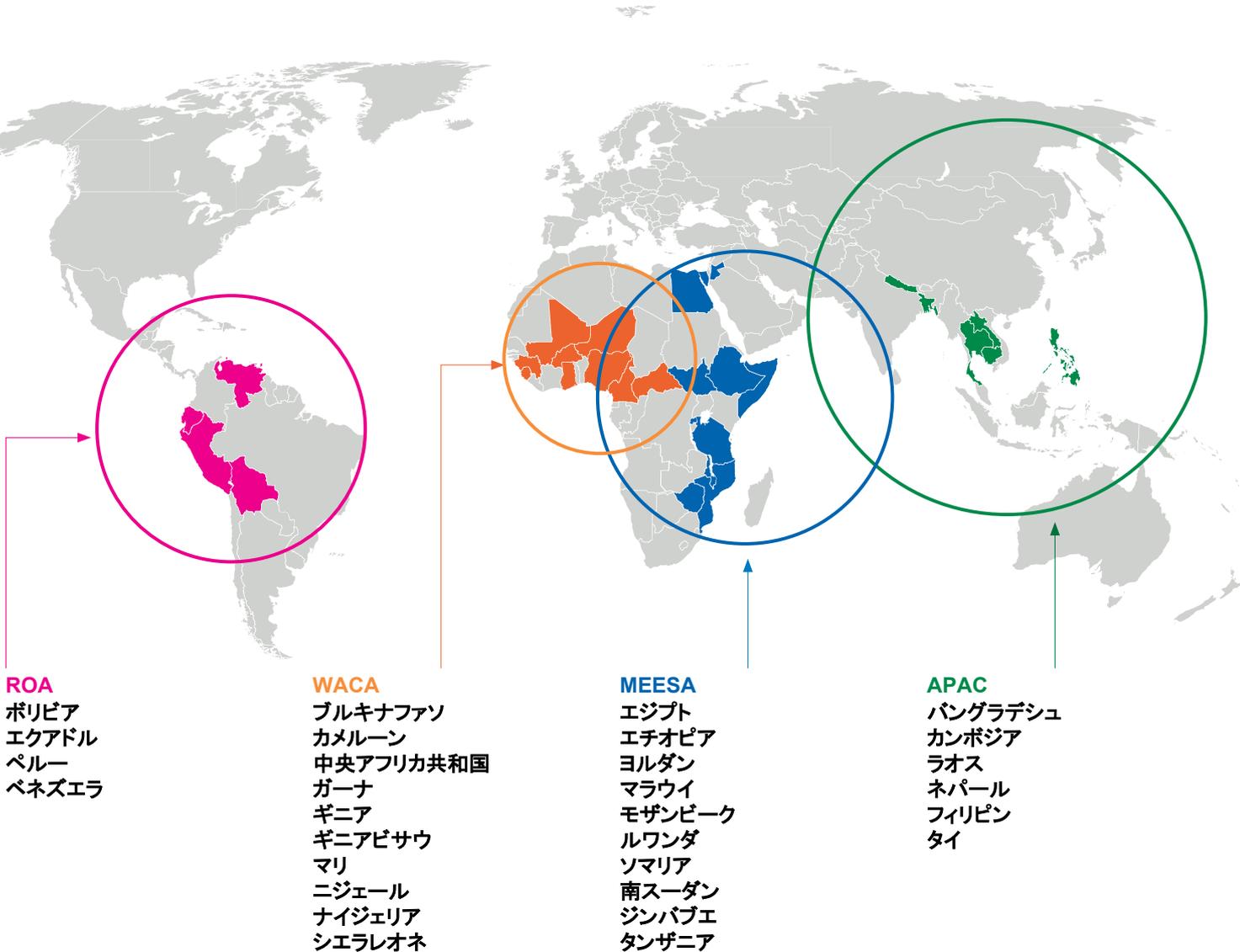
本書では、成功の可能性の高い実践的な取り組みを9つ紹介する。各取り組みには以下が記載されている。

- 実践の内容
- もたらされた成果³
- 実践を成功に導く変革の鍵
- 実践の事例研究
- 成功と持続可能性への重大な障壁

本書は、複数のニーズと課題にうまく対処するためには一体化した総合的アプローチを採る重要性を強調している。

図1

2017～2023年の間にIQEおよびEiEプログラムを実施し、メタ評価および本書に含まれる国



² IQEには、人道・平和・開発の活動を関連し合う一連のものとして行う、ネクサス・アプローチを用いて、危機や混乱の中でも教育を継続的に提供することに重点を置くEiEも含まれる。緊急時にプラン・インターナショナルが行う教育の取り組みは、安全で質の高い正規・非公式教育を受ける機会を提供することで、人道的危機の影響を受けた子どものニーズ(心理的、発達の、認知的)を満たすことを目的としている。

³ メタ評価調査の枠組みとなった重要な柱、すなわち、教育の継続性、ジェンダートランスフォーマティブ・プログラム、安全で強靱な学習環境、IQEに関連している。



バングラデシュで洪水に関する早期
避難指示を伝えるユースグループの
リーダー、Nasrin

有望実践例 1



エージェンシー（目標に対する実現可能性） を伸ばす学生クラブと安全な空間

学生クラブやピアツーピアの学習モデルは、自信を高め、ジェンダー・トランスフォーマティブな社会変革に向けた変化を促進するだけでなく、より広いコミュニティの教育への関与をすすめるプラットフォームとしても機能する。プラン・インターナショナルの学生クラブ、例えば月経衛生管理(MHM)や思春期の性と生殖に関する健康(ASRH)を学ぶ保健クラブや女の子クラブ、DRRやレジリエンスに関するコミュニティ啓発活動に重点を置く調査グループなどの学生タスクフォース、子ども評議会、子どもユース議会、学生学校運営クラブなどがその好例だ。これらはほとんどの場合教育機関ではなく、ウェルビーイング、精神衛生、心理社会的活動のために確保された場所だが、子どもにやさしい、または思春期の若者にとって安全な空間でもあり、彼らの中に所属意識とともに、その一員としての責任感が育まれ、教育コミュニティに不可欠な部分である。

成果

- 学生クラブや安全な場所に参加する。
- 生徒(特に女の子)が自信、他人との関わり方、リーダーシップを身につけることができ、学習成果の向上につながった¹。
- 男の子がポジティブな男性性を身に着け、自分にも家庭内で果たすべき責任があると考えられるようになるのに役立った²。
- 生徒の登校意欲の向上に貢献した³。
- 子ども、思春期の若者、ユース(CAY)のウェルビーイングが向上し、学校在籍率が上がった⁴。
- コミュニティの意識向上と規範の変革に貢献した(ジェンダー・トランスフォーマティブな規範の変革や障害を持つ子ども(CwD)の包摂等)⁵。
- 学校とコミュニティにおけるDRRとレジリエンス向上に効果的であった⁶。

1 Making Ghanaian Girls Great Project (MGCubed, Ghana 2017-2021), Girls' Access to Education – Girls' Education Challenge (GATE-GEC, Sierra Leone, 2017-2021), and Bolivia Mid-Term Country Strategy (CS) Evaluation (2017-2021).
 2 GAC-EIC Nigeria (2019-2023)
 3 PGI/EQUIP2 and HPP Final Evaluation (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021) and MGCubed Ghana 2017-2021).
 4 ECHO Integrated Child Protection and Education in Emergency Response Action (South Sudan, 2019-2021), GATE-GEC, Emergency Relief and Rehabilitation Support for Earthquake Affected Families of Dolakha and Sindhupalchowk Districts in Nepal Project (2015-2017).
 5 Gender Equality in Secondary Schools (GESS, Lao PDR 2016-2019) Project, Strengthening Community Resilience to Disaster through School Safety Initiatives (SCRSSI - Bangladesh, Nepal, 2018-2021), and Bolivia CS Evaluation.
 6 Safe Schools Project - Promoting Safe School Initiative in Cambodia (2016-2019), Towards School Safety in Asean Report (8 Asean countries 2007-2017), Child-Centered Recovery and Resilience (C2R2) review ASIA (2017).

変革を可能にする主な要因

CAYを対象に学生クラブの統率に必要な研修を行う

学生クラブの運営・管理方法に関する研修は、思春期の若者、特に女の子が自信とリーダーシップを身に着けるのに役立った。この研修はまた、彼女たちが学校やコミュニティで変化を起こす力を身に着ける手段にもなっている。重要なことは、研修を行う際に学校経験の浅い女の子と経験のある女の子を組み合わせた混合グループをつくることで、学習成果と自信の向上をもたらす鍵になっているということである。このことは、包摂性と多様性のある学習環境の重要性を浮き彫りにしている⁷。

事例研究

ロールモデルとしての女の子リーダー

バングラデシュとネパールでは、タスクフォース、学校防災委員会、ユースグループを運営する生徒能力向上を目的として *Strengthening Community Resilience to Disaster through School Safety Initiative (SCRSSI)* が、実施された。研修、ミーティング、その他の活動では、女の子が自信を高め、女性のリーダーシップを妨げる規範を克服するために、女の子 (CwDも含む) が意図的に進行役に選ばれた。ネパールでは、女の子が「DRR推進者」に選ばれ、仲間との対話セッションや反省会で先頭に立って、気候変動の啓発に当たった。彼女たちのエンパワメントとリーダーシップに触発され、他の女の子たちもコミュニティにおける女の子特有のニーズと権利(教育を受ける権利、早すぎる結婚・妊娠の問題など)について声を上げる勇気が持てるようになった。生徒、特に女の子の自信と自尊心が高まったことで、「できる」という前向きな考え方が生まれた。

事例研究

自信:学習成果の向上につながる重要な要素

ガーナでは、女の子が自信をつけ、家庭での悩みを訴えられるよう、*Making Ghanaian Girls Great* プロジェクト (MGCubed) の Wonder Women Clubs が女性だけの空間をつくった。このプロジェクトは、強靭さと学習成果には互いを高め合う関係性があること、そして学習成果の向上が自尊心、自信、出席率の成果につながるという重要なエビデンスを数値で示した。対人関係のスキルは、学習成果向上の土台となり、成人への移行も上手いくことがわかった。さらに、リーダーシップスキルは識字能力の向上につながることも明らかになった。また、クラブが女の子たち自身が自分たちの教育を積極的に担う後押しとなって、彼女たちのエージェンシー、自分の意見を主張してジェンダーステレオタイプに挑戦する能力を高める効果ももたらした。女の子は放課後の補習時間が、読み書きと計算の学習成果を向上させ、自信が持てるようになったと強調した。

ピアツーピア(同世代の仲間同士)の知識共有。生徒たちは、非正式で安全な環境で仲間から教わる場合は知識や情報の共有に積極的に取り組んだ。ピアツーピアの取り組みにより、ジェンダー平等や災害対応/レジリエンスの問題(これらに限定されない)について、クラブメンバーの意識が高まった。

事例研究

ピアツーピアのCSE

フィリピンでは、学校とコミュニティを基盤としたピアツーピア活動を強化するために、*Real Assets through Improved Skills, and Education for Adolescent Girls (RAISE)* のユース・ピア・エデュケーター (YPEs) クラブが設立された。YPE 毎に、2~3人の生徒と教師/指導カウンセラーが、生殖に関する健康、ジェンダー平等、いじめに関するセッションの実施方法に関する5日間の指導者研修(TOT)に参加し、これらのテーマに関するより深い理解と行動が促された。終了時点では、YPEsが女の子と男の子の両方に大きな影響を与えたことがわかった。女の子の90%、男の子の76%が、少なくとも3つは性と生殖に関する健康についての主要メッセージと自分たちがすべき具体的な行動がわかるようになり(ベースライン時のそれぞれ62.5%、52.7%から上昇)、両ジェンダーともに知識と理解が明らかに向上したことがわかった。対象校では10代の妊娠の減少も認められ、YPEsの成果であるとされた。

事例研究

精神衛生と心理社会的支援(MHPSS)の仲間

フィリピンでは *Safe School in Barmim* フェーズ3で、自然災害や気象災害のリスクに対する安全性とレジリエンスの向上を目指した。生徒はオンラインの勉強会でピア・エデュケーターになるための研修を受け、DRR、CC、MHPSSの基礎知識を身につけた。参加した生徒は研修後、資格のある教師のサポートを受けながら、オンライン上で安全な空間づくりをすすめた。ここでは、同世代の仲間同士が互いに率直に意見を述べ、困っているクラスメートに手を差し伸べ、授業や課題の遅れを取り戻す必要があるクラスメートをサポートした。こうしたピアが働きかけを行う研修と活動を通して、生徒(特に女の子)は自信を高め、ウェルビーイングに関する意識啓発にリーダーシップを発揮できるようになったことがわかった。

男の子と女の子が安全に過ごせる空間は、自己と対話し、ジェンダー不平等への意識を育むプラットフォームとしてきわめて重要である。

男の子と直接的かつ意図的に関わることで、彼らが自己と対話し、ジェンダー不平等に対する意識を育むための安全な空間が確かなものとなる。このアプローチは、男の子が積極的にかかわることで彼らの関与がすすむだけでなく、女の子と女性が、差別や暴力のない環境で成長し、成功するための安全な環境を実現する上で、彼らが重要な役割を担っていることを浮き彫りにしている。安全な空間をつくって女の子のエンパワーメントを後押しすることで、彼女たちは自身が何者であるかを探り、信頼できる環境で新たな行動を学び、試すことができるようになる。このプロセスが、彼女たちの自信と自己効力感を著しく高めている⁸。交差的な視点からも、女の子のエージェンシーが高まることで行動力はさらに高まる。

事例研究

安心して試せる

ナイジェリアでは、女の子がそれぞれのコミュニティの中で平等な権利を持つ大切な存在と見なされ、彼女たちのニーズと現実に対応した環境で質の高い教育を受けられるよう支援することを目的として、*Education in crisis-educating vulnerable girls in Northeastern Nigeria*(GAC-EIC)が実施された。ライフスキル研修を通じて、男の子は、ジェンダー平等、SRHR、GBVのない生活、早すぎる結婚からの解放など、様々なテーマに対する理解と意識を高める機会を得た。こうした自己との対話を通して、男の子は、共に生きるための前向きな態度と行動、家族やコミュニティで女性や女の子を支える方法を学ぶことができた。この取り組みの成果は著しく、研修終了時には、女の子が教育を受けたり自分の意見を述べたりする上で何が障壁となり、自分に影響を及ぼしている有害な社会規範に気づくことができないのか、男の子たちはわかるようになった。彼らは、女の子にとって好ましい環境を広げ、自分たちの男性性を前向きに示す方法を身に着ける一方で、女の子を支え、女の子を対等な仲間としてみる方法、そして変革の担い手となってGBVを削減し、ジェンダー平等の実現に向けた連帯の示し方を学んだ。

ウェルビーイング、精神衛生、PSSを促進する、子どもにやさしい安全な空間。

CAYの精神衛生とウェルビーイングに配慮することと、学校在籍率の向上との間には、直接的な相関関係があった⁹。CFSや思春期の若者の安全な空間があると、CAYがPSSを受けやすくなり、これは危機的状况では特に重要であった。また、こうした安全な空間の存在によって子どもたちの保護と安全性が高まることは、危機後の復学の大きな原動力にもなり、保護者にとっても心強い要素であった¹⁰。

事例研究

不就学の女の子への精神衛生支援

エチオピアでは、非公式教育、ライフスキル、金融リテラシーを提供する安全な場所を提供することで、都市部の不就学の女の子を支援することを目的として'*Biruh Tesfa*' *Bright Futures for all*が実施された。参加者の大半が、自身の置かれた状況(例えば、児童家事労働者や、幼い頃から家族の支えがなく一人で生きてきた女の子)のために不安や悲しみ、抑うつに苦しんでいたため、集団・個人カウンセリングや専門的な保健サービスへの紹介も行われた。多くの女の子が、自信がついて、コミュニケーションスキルが高まり、喉から手が出るほど欲しかった遊びや人と付き合う時間が増えたと報告した。最終提言では、きわめて疎外されたユースを対象とした同様の支援には、精神衛生に関する定期的なモニタリングと評価を行い、リスクやニーズに対処するためのメカニズムを組み込む必要があると述べている。

成功と持続可能性への主な障壁

- 学生クラブリーダーの卒業や転校に伴う入れ替わりによって、クラブの存続が難しくなる場合がある¹¹。フィリピンでは、ユースクラブをRAISEの正式なクラブとして、生徒会などの確立された学校の組織と連携させ、ピア・エデュケーターになることに関心のある生徒に継続的な訓練を行うことで、ユースクラブの持続可能性を支えた。
- 学生クラブ参加率の低さは、クラブがどんな活動をしているかが知られていなかったり、入部方法について明確な情報がないことが原因になっている場合がある。校内でのクラブ活動の宣伝を充実させ、明確で透明性のあるメンバー選考を行うことで、こうした障壁を克服できる可能性が示されている¹²。

8 自己効力感とは、目標をやりきる、あるいは目標を達成する自分の能力を信じられることである。自分の行動をコントロールし、周囲に影響を与え、目標を追求する意欲を持ち続ける能力が自分にあると思えることである。

9 ECHO Integrated Child Protection and Education in Emergency Response Action (South Sudan, 2019-2021), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), Emergency Relief and Rehabilitation Support for Earthquake Affected Families of Dolakha and Sindhupalchowk Districts in Nepal Project (2015-2017)

10 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021)

11 Child-Centred Recovery and Resilience (APAC 2017)

12 Gender Equality in Secondary Schools (GESS) APAC (2016-2019)

有望実践例 2



安全、包摂、ジェンダー平等と学習成果の向上に向けた教育実践者を対象とした継続的な専門能力開発

教師、CE、学校職員、ファシリテーター/ボランティアがすべての学習者を支援するための能力と知識を確実に身につけることが、プラン・インターナショナルの教育への取り組みの柱である。プラン・インターナショナルのプログラムでは、TOTセッション、教師・職員対象の対面式ワークショップ、携帯電話(WhatsApp)や放送技術を通じて行われるオンライン指導や継続的なサポートなど様々な形で教師の専門能力開発を実施している¹³。また研修は、よりジェンダー平等な教室を作るために教育者にジェンダー・トランスフォーマティブな教育法を身につけさせたり、CwDをよりよく支援する方法を指導したり、学習成果を高めるのに役立つ実践方法を共有したり、災害時も教育を継続するためのツールを教育者が使いこなせるようにするなど、幅広いテーマを扱っている。

成果

- 教員研修に参加しやすくなって**女性教員**が増えたことで、初等・中等教育に通い、修了する女の子の数がさらに増加した。
- ジェンダー平等と包摂を促進する教授法を含む、教師・ファシリテーター対象の研修は、**ジェンダー・トランスフォーマティブな成果**(例えば、多様なCAYを平等に扱い、GBVに対処し、教育にあるジェンダーに基づく障壁を克服し、女性教師をエンパワーする)を上げる上で役立った¹⁴。
- DRRとレジリエンスに関する教員研修と能力開発も、子どものMHPSSを含む教育の継続を支援した¹⁵。

変革を可能にする主な要因

ユース女性が教職に就くことを支援

し、近くに研修施設がない(アクセスがない)、治安が悪い、授業料が高い、家族やコミュニティが家から離れることを許さない、などの課題を克服する。女性教師の増加は、より多くの女の子が教育を受け、修了することにつながる¹⁶。女の子は、女性教師、特に同じような背景を持つ教師から教えられると、反応がよくなり、やる気も高まる。さらに、女性教師が増えることでジェンダー平等の認知がすすむ。

教師がジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを採用して教授法にジェンダーへの配慮を取り入れ、ジェンダー・バイアスに気づけるように支援する。

学習者中心で能動的、包摂的、ジェンダー・トランスフォーマティブな教授法とアプローチを教師が効果的に取り入れられるようにする研修は、学習環境、教師の関与度と意欲、そして皆の教育成果を向上する¹⁷。

事例研究

ジェンダー・バイアスにとらわれない教育的アプローチが、皆の教育成果を高める

ジンバブエでは、既婚の女の子、若い母親、学校に行かなかった女の子、カトリック系コミュニティの女の子、障害のある女の子、少数民族の女の子、労働に従事している女の子に教育機会を提供する目的で*Supporting Adolescent Girls' Education*(SAGE)が実施された。この取り組みの成功の鍵は、訓練を受けたCEの役割にあった。こうした教育者は日頃の学習者とのかかわりの中で、男の子の方が女の子よりも成績が良いと考えるジェンダーの実状に挑んだ。彼らは、経済活動や生計活動で成功した女の子の例や男性優位の仕事に飛び込む女の子の例を学習者用ワークブックの中で紹介するだけでなく、ジェンダーによる雇用の天井を打ち破るようさらに強いメッセージで女の子を勇気づけた。女の子たちはCEのおかげで学習成果と自信が高まり、意欲的になれたと述べた。

13 有望実践例9を参照。テクノロジー。

14 MGCubed (Ghana, 2017-2021), SAGE (Zimbabwe, 2019-2023), PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021), EQuIP2 (Guinea, Guinea Bissau, Mali, Burkina Faso, 2017-2021)

15 有望実践例3を参照。備え。

16 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021)

17 Gender Responsive Pedagogy Teachers' Training (GRPTT) Package



Kumba, Euniceと教員養成センターの同級生たち、シエラレオネ

事例研究

ユース女性のための教職への新しい道

シエラレオネでは、農村部コミュニティのユース女性が教職に就くための体系的な道筋をつくることを目的に、*Girls' Access to Education-Girls' Education Challenge (GATE-GEC)* プロジェクトが実施された。選ばれたユース女性は、地元の小学校で学習アシスタント(LAs)として勤務し、教材、個別指導講習とサポート、(約1年間の学習後の)教員養成学校(TTC)入学試験に向けた英語と数学のモジュール学習をする補習を受けることができた。TTC入学試験に合格すると、LAsは学生教師(STs)となり、通信教育や全寮制のTTCコースを受講しながら、小学校での勤務を続ける。3年間のTTC養成コースを修了すると、STsは教員資格試験の受験資格が得られる。**LA/STモデル**は、自分に対する満足度やコミュニティにおける地位が上がる、疎外された子ども(特に女の子)に影響を持つロールモデルになる力が高まるなど、教師資格を得た人々の生活に明らかに影響を及ぼした。また、女性が学校を修了していない、英語が話せないなどの事情でTTCに入学できない場合にも対処できる。

女性教師をエンパワーし、彼女たちを中心にジェンダーへの取り組みをすすめる。

女性職員を対象としたエンパワーメント研修は、ジェンダー・トランスフォーメティブな成果の基盤となった¹⁸。例えば、彼女たちが働く社会にはジェンダー規範が浸透しているにもかかわらず、プログラムを通じて女性教師が自信を得たことで学校の会議で発言や決断を下したり、意見を述べたりすることに抵抗感がなくなり、それがよりジェンダー平等な環境を作り出し、女の子に前向きなロールモデルを提供することができるようになった。また、女性教師には月経衛生やウェルビーイングの問題を気軽に相談でき、学校に女性がいることで女の子が安心し、教育への定着度が高まったというエビデンスも得られた。

18 SCRSSI(バングラデシュ、ネパール、2018~2021年)、HPP(CAR、ニジェール、カメルーン、ヨルダン)、GESS(ラオス、2016~2019年)、Stopping exploitation through accessible services project(Seas of Change)(カンボジア、タイ、2015~2018年)、GATE-GEC(シエラレオネ、2017~2021年)で裏付けられている。

事例研究

女性教師はDRRにおいて不可欠な役割を果たす

ネパールとバングラデシュでは、DRRとDRMに関する教師と生徒対象の研修としてSCRSSIを実施した。バングラデシュでは、女性教師の自信が高まり、会議での発言が増え、幼い女の子を積極的にサポートするといった成果が得られた。彼女たちはDRMとCCAで得た知識とスキルを行動に移すことができた。研修で知識とスキルが身に付いたことで意思決定の場に参加する機会が増え、ジェンダー規範や役割が社会に浸透している中でも、彼女たちは何がリスク軽減のアプローチになるかがわかり、自信が持てるようになった。女の子は、学校の安全に関することは、女性の先生に相談する方が安心できると述べた。

事例研究

ジェンダーの視点に立った包摂的な教育システム

ナイジェリアでは、ジェンダーの視点に立った包摂的な教育システムを推進することで危機下の地域に暮らす女の子たちが質の高い教育を受ける機会を増やす目的で、GAC-EiCを実施した。対象となる教師は、ジェンダーの視点に立った教授法の研修を受ける。プラン・インターナショナルが開発したジェンダーの視点に立った教授法の教員研修は、まず教育に存在するジェンダーをめぐる問題と概念から始まり、子どもを中心に据えた指導法、教室運営、授業計画、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）、評価、現状把握・振り返りの実践といった指導スキルの中心にジェンダーへの配慮が置かれている。

教師同士の振り返りグループ。

これらのグループは、教育者が自己学習と相互評価を通じて授業の質を高めるプラットフォームとして機能する。このプロセスにより、教育者が自身の授業を批判的に見直し、反省し、さらに、自己評価のために授業のビデオ録画までできるように促す。定期的開催される学校職員同士の会議では、研修で得たことを共有し、課題について話し合い、解決策を見つけ、共同体としての強い協力意識が育まれる。これがこのプログラムの重要な強みである。

事例研究

教師のピアツーピア学習

ジンバブエでは、SAGEプログラムを通じて実践コミュニティが設立され、各地区の学習ハブの職員と一緒に「計画、実行、フィードバック、振り返り」の勉強会を重ねることで、持続可能な教育実践のコミュニティづくりがすすんだ。また、メンタリング（対話を通して自発的な発達を促す指導法）の研修を受けた非公式教育のバディが教育者に付いて二人一組で活動した。このバディはモニタリングに訪れ、教育者の授業を観察し、フィードバックや改善点についてアドバイスを行った。生徒にとってわかりやすく、楽しく、魅力的な包摂的教育を提供する能力が高まったのは、受講した研修とこうしたピアラーニングの機会のおかげだと、教育者らは評価している。

事例研究

教師のメンタリング

ナイジェリアのGAC-EiCプロジェクトで実施された教員のメンタリングは、教員の教授法や実践に最も効果的に影響を与える方法の一つであることが証明されている。自己と向き合い、具体的・積極的・建設的なフィードバックを行う点がこのアプローチの特徴で、長所を認め、良い実践をすすめる、オープンなコミュニケーションを育む、支援の道しるべとなっている。このメンタリングが、教師が生徒と接して授業を行う際の手法やアプローチを改善するための指針となって、さらなる向上に向けて質問と議論が行われる環境を作り出し、継続的なサポートシステムとして機能している。

校長と学校運営陣を対象とした研修。

教員研修に加え、校長と学校運営に当たる者の能力構築とスキル向上に重点を置いたプログラムでは、教員のメンタリングと支援が行われ、リーダーシップが向上し、実際に行われる教育が改善して生徒のより良い学習経験へとつながった¹⁹。学校運営陣との協働は、学校環境におけるジェンダー平等と包摂を推進する際の確実な後ろ盾を得ることにつながる。

19 Trabajamos por un mundo justo que promueva los derechos de la niñez y la igualdad de las niñas (Bolivia, 2017 – 2021), PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021), ORME (Guinea, 2016-2017), Biruh Tesfa Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021)

事例研究

学校運営に従事する者がジェンダー平等と包摂の推進者として担う役割

ガーナでは、MGCubedで地域の教育担当官（DEO）を対象に研修を実施し、教師の授業を観察して生徒中心の学習とジェンダーへの取り組みに関する報告能力を養った。また、この研修を通して、女の子の教育ニーズについて提言すること、そして女の子が受けている授業と学習の実態を把握することに対するDEOの理解が深まった。DEOは、研修のおかげで、学校が目標を達成して「遅れをとらない」よう、支援する能力を高めることができたと述べている。

実践を重視した繰り返し/復習研修を適切なペースで行う。

プラン・インターナショナルのいくつかのプログラムでは、教師は一つのテーマやアプローチに焦点を当てた複数日の研修を好んだ。また、教師は、あまり理論的なものではなく、ある手法をどう実践するかという実践的な事例を学ぶ方が役にたつと考えていることが明らかになった²⁰。教師研修は、繰り返しあるいは復習研修が行われた場合や、小冊子、学習ガイド、研修後のディスカッションが提供された場合に、効果が上がった²¹。

事例研究

実践的な事例によるジェンダー平等の推進

フィリピンでの、RAISEの教員研修活動には、教室におけるジェンダーステレオタイプを打破するための実践的な戦略が含まれており、ジェンダー・バイアスへの対応に関する読み物も提供された。プロジェクトの調査結果によると、ジェンダー研修のアプローチが効果的であった要因として、ジェンダーステレオタイプに焦点を当てたテーマであったこと、教師が教室ですぐに実践できる行動など各テーマが実践的な方法で提供されたこと、ジェンダーによるステレオタイプ化をどのように避けるかについて、例を挙げて非常に明確に説明されていたこと、ジェンダーに関する勉強会の後にコミュニティ開発ファシリテーターが主導するディスカッションが実施されたことで和やかな雰囲気が生まれ、大事なメッセージがより印象づけられたことが挙げられる。

ジェンダーの視点に立ったPSS。

教育の継続を支えるためにジェンダーの視点に立ったPSSのスキルと教材を教師が持つことは、危機的状況下では特に、教育環境を向上させ、強靭さを高める。

事例研究

教育の継続を支えるPSS

ナイジェリアで行われたGAC-EICには、ジェンダー不平等に加えて、紛争下の地域で女の子の就学と就学継続を妨げている根本的な原因と障壁に取り組む目的があった。学習の基盤を破壊する紛争の影響に対処するため、カウンセリング、紹介、その他のサービスなど生徒と教師を対象に、ジェンダーの視点に立ったPSSが行われた。レジリエンスの理解、危機下の子どもに現れる変化、PSSを応急的に行う際の原則、ジェンダー平等、包摂、PSSを必要とする生徒の見分け方、子どもの幸福感を高めるために必要な保護者やコミュニティとの協力などの内容で研修が実施された。また、教師同士でどのように応急的なこころのサポートを行い、心を通じ合い支え合うかを学ぶ機会にもなった。研修を受けた教師は、全体的な幸福感の高まりを感じ、各校で校長がPSSの研修を学校の時間割に組み込んだ。

成功と持続可能性への主な障壁

- **CAYが持つあらゆる多様性が研修に取り入れられていない。**
生徒の多様なニーズを考慮しない研修は、教師が支援する生徒と支援しない生徒を生み、不平等が生まれかねない。例えば、Primary Access through Speed School (PASS+) (Speed School: 学校に通っていない子どもたちが復学するために通うことができる簡易教室)では、教師はCwDを含むすべての生徒を支援できるとは限らず、その結果、その集団の中途退学率が上昇した。この問題に対処するためには、あらゆる多様性を持つすべてのCAYが質の高い教育の恩恵を受けられるよう、教師の研修において、**真に交差性を踏まえた包摂へのアプローチ**をとることが推奨される。
- **教師が研修のために学校を休むことになる。** 教員や学校長が研修センターに参加したり、職員が足りないために授業が休講になることもある²²。解決策として考えられるのは、教師が戻ってきたときに補講をするか、正規の教師がいないときに指導や支援を提供できる訓練を受けたCEや家族の監督のもとで、印刷した小冊子を配布して(可能ならばラジオ番組と一緒に)学習させることである。

20 Build Back Safer Schools for All (Nepal, 2015-2017)

21 TAWASOL (Egypt, 2018-2021) and the Biruh Tesfa Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021)

22 Safe School Initiative in Cambodia (2016-2019)

有望実践例 3



備えこそが、起こり得る混乱を未然に防ぐ鍵である

起こり得る混乱を想定した備えとは、教育を混乱させる緊急事態が発生した場合に備えて計画を立てておくことである。これには様々なDRMや、より一般的には、何が教育継続のリスクになるか特定するための教育状況の分析がある。重要なことは、ジェンダーの視点に立った実現可能で実行可能な包摂的な計画を持つという意味でもある点だ。こうした計画は、生徒の教育に起こり得る混乱を確実に最小限にすることを旨とし、教育コミュニティに周知し、実施態勢を整えておく必要がある。

成果

- 教育に起こり得る混乱を想定してジェンダーを考慮した包摂的アプローチで設計された計画を持つことは、**不測の事態においてレジリエントな教育の継続性を生み出す上で効果的であった**²³。
- あらゆる多様性を持つCAYのニーズを考慮する包摂的な視点で、教育の混乱を想定し、それに備えることが、**包摂的教育の継続を支えた**²⁴。
- DRMや平和な地域づくり、意思決定に**参加する女性と女の子**が増えることで、レジリエンス、安定性、ジェンダー平等が向上した。

変革を可能にする主な要因

学校職員と生徒がリスクを特定し、その軽減に向けた行動をとるための参加型アプローチによる能力開発や研修。

学校コミュニティ(生徒、教師、学校関係者)は、外部の少数の専門家に任せず、リスクの特定と軽減に貢献できるスキルを身につけなければならない。その代わりに、学校コミュニティは、能力を高め、自らを守る力とレジリエンスを身につける。そのためには、幅広いテーマに関する研修が必要であり、それぞれにメリットがある。早期警報システムは命を救い、応急手当はさらなる被害を防ぎ、搜索救助は全員の安全を確保し、PSSは緊急事態への対応に役立ち、共同計画は効果的なリスク管理につながる。さらに、遠隔教育の研修を受けることで、生徒や教師が物理的に学校に行けない困難な状況でも、教育が継続できるようになる²⁵。

事例研究

教育の継続を保証する包摂的でジェンダーの視点に立ったDRR計画

バングラデシュで実施したDisaster Resilient Equitable School Settingsは、生徒の参加に大きな影響を与えた。DRMの各委員会を教師、生徒、生徒代表で構成することで、災害管理への生徒の参加を促した。これらの委員会は、危険・脆弱性・能力評価プロセスを通じて災害リスクを特定し、リスク軽減計画を策定した。DRM委員会の定例会も開催された。このアプローチにより、生徒の復学率が大幅に向上した。このプロジェクト以前はわずか31%だったのに対し、対象校の生徒の50%(男の子48%女の子52%)が危機直後に復学した。

生徒がしっかりとリスクを認識してDRR計画に積極的に参加できるようになることがきわめて重要である。

それによって生徒が災害や危機を理解し、軽減し、対応するための知識とスキルを身につけることができる。また、DRRを理解することで、CAYは、緊急事態への対応や災害軽減のスキルを生涯にわたって高めていくことができ、様々な危険に対するレジリエンスが育まれる。子どもの参加に焦点を当てたDRR教育は、彼らのチームワーク能力を高めるだけでなく、彼らが参加する意義が強調され、彼らがいかに重要な役割を担っているかを実感できる²⁶。



Danica, 16歳、仲間に基本的な応急手当を教える、フィリピン

23 PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021), DRESS (Bangladesh, 2020), SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021), the Safe School Initiative in Cambodia (2016-2019)

24 Real Time Review Report - Response to Cyclone Idai in Malawi, Mozambique, and Zimbabwe (2019), Safe School Initiative in Cambodia (2016-2019), MEESA Report on Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021), C2R2 (Asia, 2017).

25 DRESS (Bangladesh, 2020), Safe Schools in BARMIM, Phase 3 (Philippines, 2019-2022)

26 「レジリエンスへの道」の枠組みに基づき、プラン・インターナショナルは、活動が災害とCCIに対する子どものレジリエンスの強化に確実につながるよう努めている。

事例研究

DRRの担い手として行動する女の子と男の子

フィリピンでは、Safe School in Barmimフェーズ3が、Safe Schools 1と2で学んだ教訓を基に実施された。フェーズ1と2では、学校防災への女の子と男の子の積極的な参加が促進され、災害への教育上の備えや学校の安全管理への参加もすすんだ。これまでの経験に基づいたこのアプローチは、災害時の生徒のリスクを大幅に軽減し、DRR活動や計画に参加し決定する能力を高めることで心強い成果をもたらしている。

事例研究

レジリエンス強化のための環境保全の推進

マラウイでは、学校クラブのメンバーのレジリエンス強化に向けて2万5,000本の木を植えるなど、リスク削減活動に関する研修を通じたDRRと学校の安全性の向上を目指して、18 +Ending Child Marriages/Promoting Safe Schoolsプロジェクトが実施された。参加者は、こうした取り組みによって環境保全の重要性に対する意識が高まったと述べた。

物資の準備。

混乱の想定や備えには、災害後に必須となる備品や消耗品を、使用/配布できるようにしておくことも含まれる²⁷。こうした備品は、学校にいる教員や生徒の災害時の安全確保に役立つ。学業が中断する可能性を予測し、学用品(学習教材、教科書、練習帳など)を学年の始めに生徒に配布することは、学校が閉鎖された場合に教育の継続性を確保するための効果的な戦略であることが証明された²⁸。

公的機関との明確なコミュニケーション経路を確立する。

各省庁と自治体は、プログラム実施地域へのアクセスを向上させるため、交通の便宜を図ったり、インフラを改善するという対応においてきわめて重要な役割を果たしている。緊急時に移動が制限される場合でも、こうした明確なコミュニケーション経路を通じて、担当官は現場職員に移動を迅速に許可することができる。また、被害の程度を把握し、最も被害を受けたコミュニティを特定して緊急時に必要な対応を決定するためには、地元自治体や各セクターの機関から最新情報を入手できることが最も重要である。

DRRのプロセスと平和で安全な地域づくりに女の子と女性を参加させる。

平和な地域づくりのプロセスに女性と女の子が参加することで、レジリエンスが高まり、めめ事が起きにくいジェンダー平等な社会づくりがすすむ。また、女の子と女性をこうしたプロセスに参加させ、意思決定に力を発揮できるようにすることで、彼女たちの自尊心が高まり、ジェンダー平等がすすむ。これは、女の子クラブや、学校と連携した母親クラブ、女性クラブを活用することで可能になる²⁹。

事例研究

女性と平和で安全な地域づくり

ナイジェリアでは、コミュニティの関与、協力、問題解決を通じて包摂的で平和的共存をすすめるためにEducation in Emergency in complex contextプロジェクトが実施された。また、平和な社会づくりに女性を加えることで女性の参加をすすめる、社会の団結力を高め、女性のアドボカシー能力を強化するために、女性の平和と安全フォーラム(WOPFSEF)が設立された。WOPFSEFは月に2回会合を開き、GBVと平和と安全に関連する差し迫った問題について話し合い、可能な解決策を探った。こうした活動はまた、ジェンダー平等を推進し、女性の発言力とコミュニティの立場を強化することも目的としている。WOPFSEFは、コミュニティ内のもめ事を解決する手段となり、包摂性、コミュニティの関与による平和的共存、持続可能な秩序と安全を促進する上で役立っている。

成功と持続可能性への主な障壁

- 人道的あるいは緊急事態下ではジェンダー・トランスフォーメティブへの配慮がほとんど行われない。教育が中断される可能性が高い人道的・緊急事態下では、GTEは重視されない可能性がある³⁰。女の子と女性は災害発生後に最も弱い立場に置かれがちで、特別な配慮が必要であり、保護の面でそれぞれ不安を抱えているという調査結果が出ているにもかかわらず、だ。プラン・インターナショナルのMEESA Report on Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19を含むいくつかの報告書は、危機的状況下では思春期の女の子と女性は複数の重なり合う脆弱性を抱えているため、ジェンダー・トランスフォーメティブ・プログラムを優先することが不可欠であると強調している。
- 災害計画時にCwDへの包摂的配慮が欠けている。CwDは、DRR活動から除外されていることが多く、彼らの存在に目を向けないことでその脆弱性は著しく高まる³¹。参加型の災害計画には、包摂的で交差性を踏まえた視点が不可欠であり、障害のある人も平等にリスクの特定に加わり、訓練をうけること、そして災害時に学校コミュニティが障害のあるCAYを支え、彼らが教育を継続できるよう支援体制を整えることが最も重要である。

27 DRESS (Bangladesh, 2020)

28 例えば、PASS+(ブルキナファソ、マリ、ニジェール、2016-2021年)、GATE-GEC(シエラレオネ、2017-2021年)、SAGE(ジンバブエ、2019-2023年)、RAISE(フィリピン、2013-2018年)など。

29 Education in Emergency in complex context project (Nigeria, 2022 - 2023)

30 検証されたプロジェクトに基づく。多くのプロジェクトが提言の中で、今後のプログラム編成においてこの点を改善すべきであると認めている。

31 C2R2 (Asia, 2017)

有望実践例 4



質の高い学習環境

質の高い学習環境には、学校や学習スペースの設置や、災害時でも安全性が守られるように改修することなどがある。また、CAYの基本的なニーズが満たされるよう、ジェンダーに配慮したトイレ、台所、寮などの施設を建設することも含まれる。CAYが誰一人取り残されずに教育へ参加できるよう、すべてのインフラは誰もが利用可能なものでなくてはならない。

成果

- 物理的なインフラの建設³²など、学習環境を物理的に改善することで、教育空間がより安全で強靱なものになり、**混乱した状況下でも教育を継続することができた。**
- インフラを誰もが利用できるものにするのは、**包摂的教育**やCwDの学習成果の向上に貢献した³³。
- 学習空間(学校や教室など)の物理的インフラの改善は、**学校における生徒と教師のウェルビーイングの向上につながる**³⁴。
- また、物理的な改善によって、女の子が学校を快適で居心地の良い場所だと感じられるようにすることで、**ジェンダーに配慮した学習空間**になり、意欲と学習成果の向上につながる³⁵。

変革を可能にする主な要因

教育の建物と空間を物理的に安全にする。

例えば、屋根の修理、壁の設置、運動場の付設、地滑り処理、雷防護施設の設置、校庭を既存の土地の高さから嵩上げする(洪水レベルより上)など、構造面の改善は、生徒に安心感を与え、以前よりも多くの生徒が学校に集まるようになった³⁶。紛争時の教育の安全性という点では、特に学校の安全性を高めるフェンスの建設が成功しており、困難な状況下でも、これまでのところ学校で事件事故は発生していない³⁷。このように学習環境の安全性が物理的に高まることで、教師と生徒の双方に大きな安心感をもたらしている。

事例研究

学校の安全性が高まると不安が軽減し、集中力が高まる
バングラデシュとネパールで実施したSCRSSIでは、学校の設備が物理的にお粗末だと、授業の効果が上がらないことが明らかになった。例えば、災害で校舎が損壊するのではないかと教師が常々不安を抱いていると、授業をする自信が持てなくなり、生徒の集中力を削ぐ恐れがある。評価プロセスに参加した女の子も、校舎の改善に加えてリスク回避の知識が高まると、ストレス・不安・恐怖のレベルが下がる、と述べた。多くの回答者が、学校に行く女の子が増えた主な理由の一つは、ジェンダーに配慮したトイレ施設の新設とサニマート(各対象中学校にある生理用ナプキン販売店)の設置によって女の子のニーズが満たされ、生理中の欠席率が下がったからだと述べた。これにより学習環境が改善されただけでなく、学業成績も向上した。

女の子にやさしい学校づくり。

多くのプログラムの中で行われているMHM施設(着替えや月経のニーズに対応するための安全な空間)の建設は、学校での快適性と学業成績の向上につながり、女の子が教育を受けやすくなるなどプラスの成果を生んでいる³⁸。女の子にやさしい教育空間づくりには、ジェンダーに配慮したWASH施設の改修と建設、安全な学習環境の整備、通学距離の短縮も含まれる。

衛生施設の改善。

(特に危機後の状況では)衛生的なトイレと学習施設が、学習の継続を支えた。例えば、エボラ出血熱の流行後にギニアで実施されたORMEプロジェクト³⁹では、トイレ、食堂、給水所、衛生習慣の改善による学校環境の改善と、生徒の学業成績の向上との間に相関関係があることが評価で指摘されている⁴⁰。同様に、震災後の状況においては、臨時学習センター(TLC)、保健教育、仮設トイレ建設、給水タンク、教員研修を一体化したパッケージで提供したことが、教育の継続を支えた⁴¹。

32 例:ジェンダーに配慮したWASHシステム、清潔で衛生的な空間、学校周辺のフェンス、学校付近の横断歩道、学校近くの寮、スロープ、障害者用アクセスシステムなど。

33 Build Back Safer Schools for All (Nepal, 2015-2017), C2R2 (Asia, 2017)

34 Build Back Safer Schools for All (Nepal, 2015-2017), SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021)

35 Enhancing access and retention of girls in the secondary schools (Tanzania, 2021-2022), SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021), EQUIP2 and HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021), GESS, Lao PDR 2016-2019

36 SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021) and Disaster Resilient Equitable School Settings (DRESS) Project (Bangladesh, 2020)

37 EQUIP2 (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, 2017-2021)

38 Enhancing access and retention of girls in the secondary schools (Tanzania, 2021-2022), SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021), EQUIP2 and HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021), GESS, Lao PDR 2016-2019

39 ORME project (Guinea, 2016-2017)

40 評価報告書には、学業成績の種類別の統計や、この相関関係の考えられる原因と説明について、それ以上の詳細は記載されていない。しかし、このプロジェクトでは、教員研修や子どものための補習クラスによる学習支援など、多くの取り組みが行われたことに注目すべきである。

41 Emergency Relief and Rehabilitation Support for Earthquake Affected Families of Dolakha and Sindhupalchowk Districts in Nepal (2015-2017) and Build Back Safer Schools for All (Nepal, 2015-2017)



学校のMHM洗面施設と思春期の若者に配慮した情報コーナー、ネパール

学校を利用しやすくする。

照明、手すり、スロープ、傾斜のゆるい階段、特別な床タイルなど、CwDのための設備は、皆のための包摂的な学習を促進した。こうした改善によって、CwDは教育を受けやすくなり、それによって就学率を高めることができる⁴²。

事例研究

皆が質の高い学習ができる、利用しやすい建物

ネパールでは、Build Back Safer Schools for Allプロジェクトの一環として、視覚障害や聴覚障害のある生徒を受け入れられる学校の建設が行われた。この工事には、耳の不自由な生徒に災害の発生を知らせる電球の設置、通常より広い教室の壁面に手すりを設置し、手すりが必要な生徒が移動しやすいように整備、視覚障害者をサポートするための特殊なタイルを敷いたベランダなどが含まれる。また、車椅子で移動できるようにスロープも設置された。構造面での改善(安全な校舎、校庭、塀、地滑り被害のリスクを減らすための防護壁)と構造面以外の施設改善

(WASH、CwD)にとっての利用のしやすさ、運動場、実験室、コンピュータ施設、教育キット、学習教材、備品、スポーツ、音楽設備)の両方を行うことが、皆にとってより良い教育をもたらすことにつながった。障害のある生徒の一人は、地震以来、学校が倒壊するのではないかと恐れていたという。校舎が改善されたことで、彼は安心できるようになって、友達にも学校に戻るよう勧める気になった。彼は、警告灯が点灯すれば、彼も障害を持つ友達も助かると指摘した。

成功と持続可能性への主な障壁

- 物理的な改善は、包摂的教育と教育の継続性を実現する重要な手段であるが、それだけでは十分ではない。CwDのアクセスを向上して就学率を高めるには、身の周りのインフラだけでは不十分なことに留意すべきである。例えば、ネパールのBuild Back Safer Schools for Allプロジェクトでは、教師が態度を変え、CwDをもっとサポートできるようになり、また、災害後にケアの必要な者にこころのサポートができるようになるには、特別な研修が必要だと指摘された。これはジェンダーに配慮したWASH施設の建設にも言えることだ。物理的な施設だけで、女の子と女性が生理中に教育に参加することを阻む社会規範を克服できるわけではない。とはいえ、女の子の安全と快適さの向上における、その貢献度は非常に大きい。

有望実践例 5



代替教育および 非公式教育プログラム

代替教育プログラムおよび非公式教育プログラムは、正規教育と並行した、あるいは正規教育に代わる学びの道を生徒に提供し、これによって彼らは正規教育を受けたり復学への不安が取り除かれたり、教育の遅れを取り戻したり、労働市場に進むことができるようになる。プラン・インターナショナルの取り組みの中で行われている代替教育プログラムの例としては、(学習の遅れを取り戻す)加速学習クラス、TLC(緊急時など)、コミュニティが運営する学習ハブ(季節労働や家事労働に従事するCAYなど、標準的な就学時間内に正規教育を受けることができないCAYが対象)、子どもの保護スペース(子どもが学習を継続し、必要に応じてここのサポートとしてカウンセリングを受けることができる)などがある。

成果

- 代替教育や非公式教育プログラムは、正規教育への就学・再就学の可能性を広げる、あるいはCAYが正規教育を受けられない場合に正規教育の代わりとなるため、**教育の継続性**が守られ、それに備える土台になる⁴³。
- 代替教育や非公式教育プログラムは、正規教育から取り残されたCAYや正規教育を受ける道がなかった者(特に疎外された女の子)のニーズに応えるのに有効なため、**包括的教育**の支えになる⁴⁴。
- 放課後学習や少人数の学習グループなどの代替教育プログラムは、**学習成果とCAYの受ける教育の質を向上させた**⁴⁵。
- 地方、国、および/または地域の優先事項に沿ったほとんどの取り組みでは、**関係当局や関係省庁(教育省など)と連携・協力**することが、効果・展開力・持続可能性にプラスの効果をもたらすことがわかった⁴⁶。



Anna(5歳)、保育所で友達とお医者さんごっこ、ラオス

変革を可能にする主な要因

AEと「挽回」教育戦略。

数学年分の学習内容を短期集中コースに凝縮して再編成することは、学習者が国の教育水準に追いつく助けとなり、よりスムーズに正規教育に移行できるという成果が、プラン・インターナショナルのプログラム全体に見られた。プラン・インターナショナルには、様々な年齢層(就学前教育⁴⁷、初等教育から正規の学校への移行、高学年から就労への移行)に対応した独自のAEモデルがあり、まとめる学年数も様々だ⁴⁸。AEは、開発、人道、危機後、長期化する危機のいずれの状況においても有効であることが証明されており⁴⁹、幅広い文脈で成功の可能性を示唆している⁵⁰。AEに関して**公的機関や政府の協力と承認**があることが、正規教育への移行や当局による最終認定の承認の後押しとなった。関係当局との連携は、代替教育プログラムの持続可能性と影響力を向上させた⁵¹。

事例研究

就学準備

複数国(ラオス、カンボジア、タンザニア)で実施されている、LEARN-Summer Pre-primaryプログラムは、不利な立場に置かれて就学前教育を受けられない子どもたちが、就学と成功に向けてより良い準備をすることを目的に実施された。評価の結果、この取り組みによって就学準備がすすみ、通常の年齢での入学、1年生での定着率に改善が見られ、幼い頃から逆境にさらされてきた子どものレジリエンスが向上したことがわかった。

43 EQuIP2 and HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021)

44 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021), SAGE (Zimbabwe, 2019-2023), Seas of Change (SEAS - Cambodia and Thailand, 2015-2018), RAISE (Philippines, 2013-2018)

45 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), BRiCE (Ethiopia, Somalia 2018-2022)

46 Support to Response, recovery, and resilience in Borno State, Nigeria (2019 - 2022)

47 Plan International's Global Programme and Influencing Model I am Ready! Accelerated pre-primary education programme

48 例えば、EQuIP2やHPP(ブルキナファソ、マリ、ギニア、ギニアビサウ、カメルーン、CAR、ニジェール、ヨルダン2017-2021)では、1年で2学年分の学習内容を凝縮して実施し、成果を上げた。

49 Burundian and Congolese refugees have access to quality and holistic protection services in refugee camps in Tanzania project (2018-2019) took place in refugee camps; and the HPP and EQuIP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021) took place in the development and humanitarian contexts.

50 人道・開発・平和を一連のものとして捉えるネクサス・アプローチでは、危機の前・最中・後における人々の脆弱性に一貫した対応をとるために必要な作業に重点が置かれている。この考え方は、

「DRR」、「緊急援助・復興・開発を連携させる概念(LRRD)」、「レジリエンスの問題」、さらに紛争に対する配慮を対応全体に組み込むなど、人道と開発の分野における長年にわたる取り組みの中に一貫して流れている。

51 LEARN-Summer Pre-primary (SPP - Lao PDR, Cambodia, and Tanzania, 2014-2024)

事例研究

持続可能性、展開力、影響

ナイジェリアでは、不就学の子どもの基本的な計算能力と読み書きを学び、正規教育に復帰したり、職業訓練を受ける機会をつくるために *Support to Response, recovery, and resilience in Borno State* プロジェクトが実施された。このプロジェクトは、教育省が政策や教員研修パッケージを含む **AEカリキュラム** を開発・試験導入する後押しとなった。プロジェクト終了後、新しいカリキュラムが認定され、今後国内で統一したAEの取り組みを行う助けとなる。

事例研究

教育の継続性

西アフリカの複数国（ブルキナファソ、マリ、ニジェール）では、不就学の子どもの教育へのアクセス向上を目指して *Pass+* プロジェクト（2016～2021年）が実施された。文部省との緊密な連携の下、特に新しく移行してきた生徒の支援方法について教師の知識を高めることで、加速学習センターから正式な学校への生徒の移行をすすめることが可能となった。またこのプロジェクトでは、地域当局と協力して、すべての子どもが国の試験を受けられるよう出生証明書を取得できるようにした。

事例研究

女の子の学習をサポートする補習授業

エチオピアとソマリアでは、安全で質の高い教育を受けられないことが多い危機下にある子どもを対象に、*Safe and quality education for girls and boys in displacement situations* (BRiCE) プロジェクト（2018～2022年）が実施された。女の子のための補助教育の必要性に応じて、放課後クラス形式の補習教育が開始された。少人数のグループごとに、最長8週間の継続的な支援が提供された。収集されたデータによると、補習教育に参加した女の子は100%成績が向上した。参加者からのフィードバックによると、家では家事や家族の世話の役目を果たすことが期待されて時間や場所がなくてのどから手が出るほど欲しかった、宿題をする物理的なスペースと時間が放課後の補習授業で手に入るため、放課後の補習授業に参加できることを女の子たちがありがたく感じていることが浮き彫りになった。

支援がより届きにくい生徒を対象にした少人数グループまたはコミュニティ学習ハブ⁵²は、個別支援とピアツーピア学習の機会を提供する⁵³。

このようなタイプの教育プログラムでは、ファシリテーターが監督または付き添う少人数の学習グループを対象に、生徒が難しいと感じる授業をかみ砕いて教えることができる。生徒、特に社会的・経済的に困難な状況下にあるCAYと女の子は、慣れ親しんだ環境でCE/ファシリテーターや仲間と触れ合いながら、少人数のグループで学べてためになると感じている⁵⁴。



Najma（11歳）と親友は一緒に勉強している

事例研究

学習成果を高めるための勉強グループ

シエラレオネでは、社会的・経済的に困難な状況下にある女の子とCwDが学校に通い、彼らが持つ学ぶ力を最大限に引き出し、安全で包摂的な環境で学び、進学やその先にうまく移行できるよう支援するためにGATE-GECプロジェクト（2017～2021年）が実施された。読み書きと計算能力を中心とした少人数制の学習グループが学習支援となって学習成果の向上につながるるとともに、彼らの自信とエージェンシーを高めた。参加者は、少人数制のグループでは、学校で学んだことを質問したり実践したりする機会が増えたと述べている。ファシリテーターが包摂的なアプローチを採用することで、こうしたグループはすべての参加者に等しく参加の機会が提供される、包摂的な空間になっていると生徒は感じていた。

生徒のニーズに耳を傾ける。

生徒と関わり、彼らのニーズに耳を傾けることで、彼らが学ぶ力を持ち続けてその力を発揮することを妨げている障壁を浮き彫りにすることができる。生徒の声を傾聴することを優先したプログラムでは、遠距離、育児、活動予定がかち合うといった問題が、生徒の教育を妨げる主な障害であることが明らかになった⁵⁵。プログラムでこうした課題に的を絞った対応を行った場合、出席率が向上する、学習に熱心に取り組む、非公式教育から正規教育にスムーズに移行できるなど、プラスの成果が見受けられた⁵⁶。

柔軟性。

柔軟性は、利用しやすい教育プログラムに不可欠な要素であると認識された⁵⁷。これには、生徒のニーズに基づいた柔軟な時間割や提供方法（週当たりの授業回数の増減、自習用テキストの提供など）が含まれる。

52 例えば、GATE-GEC（シエラレオネ、2017年～2021年）やBright Futures（エチオピア、2019年～2021年）では、村レベルで約15人の生徒のグループがコミュニティに集まり、地元で採用され訓練されたファシリテーターや教師が開催する。

53 MEESA Report - An Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021)

54 SAGE (Zimbabwe, 2019-2023) and GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021),

55 SAGE (Zimbabwe, 2019-2023), RAISE (Philippines, 2013-2018), Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021)

56 Ibid.

57 SAGE (Zimbabwe, 2019-2023), PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021), Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021), RAISE (Philippines, 2013-2018)

事例研究

改良型校内・校外アプローチ(MISOSA)と開放型高校プログラム(OHSP)

フィリピンでRAISEは、MISOSAとOHSPと呼ばれる革新的なアプローチを採用した。MISOSAでは、クラスを2つにグループ分けし、正規の内容に沿った授業を担当教師が教室で行う校内グループと、教師がファンリテーターを務め、教室以外の場所で生徒に自習教材(SIMs)を提供する校外グループに分ける。OHSPでは、通常の授業に出席できない生徒の学習ニーズに対応するため、自習型の遠隔学習が行われている。OHSPでは、修了に柔軟性を持たせており、プログラム修了まで最長6年間が認められている。つまり、生徒はそれぞれの状況に応じて、早く進んでも遅く進んでもよいということである。インタビューに応じた学校長は、MISOSAとOHSPの実施により中途退学者ゼロが達成されたことと述べている。こうしたアプローチは(自習が必要なため)自立した学習者に最も適しているが、教師や学校長は、MISOSA/OHSPの学習者が時間をかけて自立できるよう教師が家庭訪問、休憩時間中の1対1の個別指導、読書サポートなどを通じて支援していることを強調した。インタビューを受けた学習者は、MISOSAとOHSPのおかげで、定期的に学校に通うことができないにもかかわらず修了し、次の学年に進級することができたと述べた。また、SIMsを使った自習によって学校の勉強についていけるようになったため、長期欠席(妊娠など)の後でも学校に戻る意欲が高まったと述べている。

支援が届きにくい生徒に特化した個別アウトリーチ(出張支援)・アプローチ。

教育を受けていない生徒のためにCEやメンターが一人ひとりに合わせて戸別訪問する方法を用いた結果、最も支援が届きにくいCAYが教育に参加することができた⁵⁸。このアウトリーチ・アプローチは、メンターや教育者自身が支援の届きにくいコミュニティの出身で、こうしたCAYとより親密な関係を築くことができたり、社会的・経済的に困難な状況下にあるCAYに取り組ませる方法について研修を受けていた場合、CAYと上手につながることができた。

事例研究

最も支援が届きにくい女の子を支援するための個別アウトリーチ・アプローチ

エチオピアでは、現地で採用され訓練を受けた女性のメンターと教師が開く安全な空間に不就学の女の子(10~19歳)を集めるために、アムハラ語で「明るい未来」を意味するBiruh Tesfa For Allプロジェクト(2019~2021年)が実施された。参加者集めは、メンターが家々を回って行き、これにより、彼らはふさわしい女の子を見つけ、必要であればプログラムへの参加を掛け合うことができた。これが、家事労働者にとって特に大きな意味を持つ。メンターはプロジェクトのコミュニティから選ばれ、ほとんどの場合、地元の女性リーダーであった。多くのメンターは、その地域に移住してきたり、家事労働に従事していたりと、参加者と同じ経験を持っていた。以前は、こうした困難な状況下にあるグループに対する標準的な支援アプローチは、コミュニティが運営する団体の会員になることであったが、この戦略は、そういった団体にアクセスできる者しか支援できない傾向があった。コミュニティ学習グループで、女の子は週に4日非公式教育を受け、5日目にライフスキル/金融リテラシーを学んだ。参加者は識字能力と計算能力が目覚ましく伸び、自信の高まりが見られ、女の子はそれを「他の人と同じように物事をする」力と表現した。このプロジェクトは、柔軟な解決策が提供されれば、家事労働に就く子どもを教育に参加させる可能性を示している。長期欠席に対しては、補習、週末の個別指導、専属メンターによるサポートで遅れを取り戻す機会を提供する取り組みを行った。コミュニティに新しく移住した女の子が参加でき、中途退学した女の子が再び参加できるよう、参加者集めは複数回実施する必要があった。

成功と持続可能性への主な障壁

- 代替教育プログラムから正規教育への移行。正規の学校制度では、代替教育から移行する生徒を受け入れる施設が不足しているため、教室が過密状態になる場合がある。これによって、教師が教室を運営し、質の高い学習を提供することが困難になり、最終的には学習者の登校意欲を低下させることになりかねない。正規教育への移行を目指す加速学習の取り組みでは、場合によっては国や地域の教育当局との協力を通じて、正規教育システムの収容能力にも同時に取り組むべきである。また、加速教育から移行してくる学習者を迎え入れる正規教育の関係者(例えば、校長や教師)が、新しく加わる学習者をサポートするために必要なスキルと知識を持っていることも不可欠である。
- 放課後クラブや生徒が学校で過ごす時間が長くなるプログラムでは、生徒の基本的なニーズを考慮することが不可欠である。例えば、GATE-GECプロジェクト(シエラレオネ、2017~2021年)では、参加者の半数以上が、学習グループに食事が無いことが最も残念な点だと感じていた。このことは、生徒のウェルビーイングや学習成果に大きな影響を与え、学校で過ごす時間が長くなっても生徒が空腹や喉の渇きを感じないようにすることの大切さを浮き彫りにしている。したがって、非公式教育プログラムでは、正規教育と同様、こうした基本的ニーズへの対応を優先しなければならない(安全な施設、WASH施設など)。

有望実践例 6



学校全体での取り組み - コミュニティによる支援

コミュニティによる支援の仕組みとしては、学校や教育運営委員会、保護者会、育児サークルや保護者クラブ、地域障害者ネットワーク、地域の教育問題に取り組むコミュニティ主導の児童保護機構などがある。こうした組織には、コミュニティの賛同を促す、主要なステークホルダーを招集できる、学校や教育プログラムの使命を支えるといった強みがあり、プログラムを強化することができる(例えば、学校建設プロジェクトのための労働者調達を手助けする、コミュニティ行事を組織する、教師がCAYの家族と関係を築くのを後押しする)。

成果

- コミュニティの組織は、**啓発と規範の変化**(教育への参加と継続をめぐるものなど)を支えた⁵⁹。
- コミュニティの組織は、**ジェンダー・トランスフォーメティブな変革と包摂**(例: CwDや 恵まれない子どもを教育活動に参加させる)を支援した⁶⁰。
- コミュニティの組織は、学校職員が直接、**不就学の子どもを特定し、彼らの(再)就学を促す力**となった⁶¹。

変革を可能にする主な要因

学校(または教育プログラム)とCAYの家族の間の調整を行う。

教育運営委員会や保護者会などコミュニティの組織は、学校と家庭の間という独自の位置づけがあり、両者の仲立ちをすることができる。仲立ち役として、学校だけでは解決が困難な問題を解決する手助けをすることができる。例えば、生徒の家庭に伝えるべき情報がある場合や、生徒が学校を休んでいる場合、委員会のメンバーが家庭を訪ねて状況を把握し、解決策を見つけることができる⁶²。



Yollanda (12歳)は携帯電話を使ってコミュニティ教育者と連絡を取っている、ジンバブエ

事例研究

CwDに向き合うための保護者間サポート

ジンバブエでは、*Creating a Safe and Friendly Environment for Adolescent Girls and Boys*プロジェクト(2016~2019年)で、保護者同士の支援グループが設立された。これらのグループは、CwDのケアの問題を抱える保護者を対象にPSSを行った。さらに、**コミュニティが運営するリハビリテーション(CBR)委員会**は、就学年齢のCwD全員が通学支援を受けられるように責任を持って取り組んだ。その結果、就学率は著しく向上した。例えばクウェクウェ地域では、プロジェクト開始前はCwDの約10%しか学校に通っていないのが、約60%にまで増加し、子どもの教育にプラスの効果があったことが明確に示された。

59 BRICE (Ethiopia, Somalia 2018-2022), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021),

60 PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021)

61 PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021), REACH (Ghana, 2016-2021)

62 CBR委員会は通常、障害者、その家族、コミュニティ関係者、自治体当局の代表者で構成される。

地元やコミュニティに関する豊富な知識。

コミュニティ組織が人材豊富で地域の状況に精通していれば、教育の継続を支え、規範を変え、支援の届きにくいCAYに手を差し伸べるための最も効果的な活動を見出すことができる(例えば、戸別訪問による確認、コミュニティの拠点、ラジオやテレビなどの非接触戦略など)。コミュニティ・リーダー、ボランティア、保健員、ユース・リーダーなどが参加者の特定に加わることは、対象コミュニティの最も脆弱な家族に手を差し伸べるための重要な要素であり、こうしたコミュニティを基盤とした戦略が効果を上げられるかどうか、コミュニティの真価が表れる。

事例研究**疎外された女の子を支援するコミュニティの関与モデル**

シエラレオネでは、GATE-GECプロジェクト(2017~2021年)で、社会的・経済的に困難な状況下にある女の子とCwDの就学を支援するコミュニティの関与モデルが開発された。コミュニティの関与を通じた信頼構築を目指してCOVID-19以前に開始したこの活動は、COVID-19後、「学校復帰と安全な学校再開」キャンペーンの成功という形になった。99%の女の子とCwDが、6ヶ月の長期休校の後、復学。学校閉鎖中も子どもと連絡を取り合うために、強力なコミュニティ・ネットワークを活かした取り組みが実施され、復学に向けた家族の関与を促すことができた。

事例研究**より包括的なコミュニティの安全をストレートに映し出す学校の安全**

エチオピアとソマリアでは、BRiCEプロジェクト(2018~2022年)で、CPCを立ち上げて安全な学習環境の構築を目指した。保護者などのCPCメンバーは、子どもの保護と安全な学習環境づくりに関する研修を受けた。学校の安全にはより広いコミュニティの安全がストレートに表れるとわかったCPCメンバーは研修後、対面やラジオ番組を通じてコミュニティの対話型セッションを主導し、社会の結束を高めた。セッションは、ジェンダー混合の対話、社会の結束、脆弱な集団への支援などの内容で行われた。対話のモニタリングから、対コミュニティ効果を高める最善策がいくつか浮かび上がった。

- 啓発イベントを通じて、保護リスクに対処する具体的な活動(学校改善計画など)に対するコミュニティの賛同を得る。
- コミュニティ関係者と協力の下、宗教儀式で話題になっている問題を盛り込んで地元のラジオ局で放送することで、メッセージがより広く届くようにする。
- CPCの議論で重要な問題を取り上げ、研修やプログラムで今後何を優先していくかを決定できるようにする。

研修と能力開発。

コミュニティ主導のCPCのようなコミュニティ組織は、能力強化研修を受ければ、さらなる効果を生み出せる。多くの場合非公式なコミュニティ組織は研修を受けることで機能的になり、コミュニティで発生した事件(子どもに対する暴力など)の発見、監視、報告、対応ができるようになる。

既存のものを土台として参加を確かなものにする。こうしたコミュニティ・アプローチがしっかりと効果を上げられるかどうかは、特に危機や不安定な状況下では、既存のコミュニティ組織とリーダーシップに左右される⁶³。既存の組織、スキル、知識を活用することが、迅速な対応メカニズムの効果的な実施につながる。対象集団やそのコミュニティが参加する形で活動することが、持続可能性を支える力になる⁶⁴。

成功と持続可能性への主な障壁

- **持続可能性。**コミュニティ組織の運営能力、技術力、資金力、特に予算管理能力が限られている場合、研修や支援が必要になることがある。しかし、地域のコミュニティ組織が外部からの支援に依存するようになるリスクもある。考えられる解決策の1つは、こうした組織に参加する個人の能力を徹底的に高め、小冊子、パンフレット、ポスター、ビデオなどを通じて学んだ実践と知識を忘れずに維持する方法を教えることである。

63 MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021), Zimbabwe Disaster Rapid Response Mechanism (ZDRRM) (2020-2021), BRiCE (Ethiopia, Somalia 2018-2022).

64 SAGE (Zimbabwe, 2019-2023), Safe School Initiative in Cambodia (2016-2019), ECHO Integrated Child Protection and Education in Emergency Response Action (South Sudan, 2019-2021), Enhancing access and retention of girls in the secondary schools (Tanzania, 2021-2022)

有望実践例 7



用具と食料の配布と現金バウチャーによる支援(CVA)

この取り組みとは、学校や家で勉強を続けるための学用品や備品(暗い夜間も)、あるいはCAYの基本的ニーズ(食料、水、衛生用品など)と女の子特有の基本的ニーズ(月経衛生用品など)、またはCwDの基本的ニーズ(補助器具やケアなど)に応えるための物資の配布を指す。

成果

- 学用品の配布は、生徒が教育を受け続けて中途退学しないようにするのに役立ち、**教育の継続を支えた**⁶⁵。
- 学用品の提供は、**緊急事態**における教育の継続に不可欠であることが証明された⁶⁶。
- CAYの具体的なニーズに基づいた教材と食料を配布することで、女の子が月経中でも学校に通え、CwDが教育に参加でき、**包摂性を支えた**。
- **教育のためのCVA**は、主に教育を受け続けることを阻む障壁に対する取り組みとして実施された。CVAによって家計の収入が上がることで教育費を工面できるようになり、児童労働や早すぎる結婚など有害な方法に頼らずに済む可能性が生まれた⁶⁷。

変革を可能にする主な要因

学用品には、**かばん、ペン、鉛筆、ノート、制服、文房具**(「Backtoschoolkit」)が含まれる。

こうした物が提供されることで、特に女の子、CwD、疎外され経済的に恵まれないコミュニティの子どもは教育を受けやすくなる⁶⁸。特に、通学かばんの配布は、学習教材が濡れないようにするのに役立つため、雨季に有効であることが確認された。

事例研究

Back to school kits

エジプトでは、弱い立場に置かれた子どもたちが教育を受けやすくするためにSupporting Basic Education for Syrian Refugees and Egyptian Host Communities(TAWASOL)プロジェクト(2018~2021年)が実施された。Back-to-School Kitによって、難民の保護者の経済的負担が軽くなり、その分を食費や家賃など他の基本的なニーズに充てられるようになった。これにより、子どもを学校に通わせ続けて中途退学せずに済ませることができた。

太陽光ランプ。

太陽光ランプは、生徒(特に経済的に恵まれない生徒)が、特に電気の通じていない家で学習を続けるのに役立つ。また、太陽光ランプは、外が暗くなってからCAYが安全に家まで帰るのにも役立つ⁶⁹。

自宅学習する際の自習用解説書、教科書、小冊子。

これにより、生徒は遅れを取り戻したり、自身のペースで学ぶことができ、学習を継続させることができる。



Shuborna(10歳)、太陽光ランプのおかげで夜に勉強ができる、バングラデシュ

65 PIE and Safer School in Sindhuli (Nepal, 2018), EQUIP2 and HPP projects (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021).

66 Build Back Safer Schools for All (Nepal, 2015-2017), Strengthening resilience through Cash for Education in North-East of Nigeria (2017-2019), PASS + (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021)

67 **The Role of Cash and Voucher Assistance in Increasing Equity and Inclusion for Girls and Children with Disabilities in EIE (2022)**

68 PIE and Safer School in Sindhuli (Nepal, 2018), EQUIP2 and HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021) and GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), REACH (Ghana, 2016-2021)

69 SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021) and ORME (Guinea, 2016-2017)

事例研究

遠隔学習用ツールMyBook

シエラレオネでは、学校閉鎖に伴い、GATEGECプロジェクト(2017~2021年)で、遠隔学習ツールMyBook(紙ベースの学習教材と問題集)を考案し、学習グループや挽回勉強会で生徒が使用したり、学校閉鎖中の遠隔学習に使用できるようにした。MyBookは、今後の休校期間にも対応できるよう、将来を見据えて考案された強力なツールである。指導と研修により、教育者は、学習グループを行っている間に、電話や対面で生徒を遠隔サポートできるようになった。これにより、子どもは学校閉鎖中も学習を続けることができ、パンデミック以前から遅れをとっていた子どもも遅れを取り戻すことができた。

食料と水。

登校前にすべての生徒が食事をとっているとは限らず、授業中に空腹に耐えられなくなる恐れがある⁷⁰。したがって、CAYのウェルビーイングと教育の継続を実現する上で不可欠なのは、学校または学校近くの場所に食料を確保することである(食料がある場所までの往復に多大な時間を取られないようにするため)。「マラウイ、モザンビーク、ジンバブエにおけるサイクロン「Idai」への対応に関する報告書」(2019年)では、食料のないコミュニティは参加できなかったため、GBVのメッセージを届けることができなかったと記されている。

分野横断的な協力

シエラレオネでは、分野をまたいだ協力などを通して、学習の妨げとなる飢餓に的を絞った取り組みを増やす必要があるとGATE-GECプロジェクト(2017~2021年)でも指摘された。プロジェクト評価では、ジェンダー・トランスフォーメーション(ジェンダー平等の実現に向けた社会変革)は交差性を踏まえた具体的な取り組みを一つ一つこなしていくことだと述べられた。社会全体に及ぶ変化を実現し、浸透させるためには、教育・社会福祉・金融分野の主要ステークホルダーとともに活動する必要がある。

月経衛生用品。

月経用ナプキン、タンポンなどは、女の子と女性が月経の手当てに欠かせないものである。いくつかのプログラムにおいて、月経衛生用品や尊厳キット(生理用ナプキンや石けん、ショーツなどの女の子の生活必需品をセットにしたもの)の提供は、女の子と女性が教育を受け、継続するのに役立った⁷¹。

CwDのための用具と医療。

補聴器や眼鏡などの補助具を取り入れることで、CwDが教育を受けやすくなる⁷²。

教育のためのCVA

現金給付が、学校への参加(就学率と中途退学率)に役立つことは自明の理である。疎外された子どもも共に持続的に教育を受けられるよう、人道的プロジェクトは、CVAの受給者をどのように支援すれば彼らの経済的障壁を長期的視点で克服できるのか、その方法(例えば、EiEに特化したCVAと生計プログラムとの連携を通して)を検討し、人道分野と開発分野の架け橋となって、人道的CVAをより大きな社会的保護とセーフティネットの仕組みにつなげることを目指す必要がある⁷³。

成功と持続可能性への主な障壁

- **配布または配達遅れ。** Back-to-school キットが届くのが遅すぎると、それを必要としているかもしれないCAYにとって、その価値が低くなってしまふ。したがって、タイムリーな計画、調達、配布を優先的に検討すべきである。
- **CwDは提供された用具の使い方がわからないかもしれない。** CwDとその家族に提供された補助具や医療支援を利用できるように指導することを検討する必要がある。
- **提供された用具が、現在あるインフラに即していない場合がある。** 例えば、車椅子は、移動に問題のある子どもにとって有用な用具かもしれないが、スロープがなければ、その有用性を十分に発揮できない。そのため、CwDのための用具は、他のプロジェクト(例えば、物理的なスペースの建設や、用具・食料を最大限活用する方法に関する教師・生徒対象の研修)とパッケージにする必要がある。

70 EQUIP2 (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, 2017-2021), Response to Cyclone Idai in Malawi, Mozambique, and Zimbabwe (2019), Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021)

71 Bright Futures (Ethiopia, 2019-2021), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021)

72 例えば、ジンバブエにおける思春期の女の子と男の子にやさしい安全な環境づくりに関するプロジェクト(2016~2019年)

73 The Role of Cash and Voucher Assistance in Increasing Equity and Inclusion for Girls and Children with Disabilities in EiE (2022)

有望実践例 8



家族と保護者を教育に関わらせる

教育に家族を巻き込むと必然的に、保護者は子どもが教育を受けられるように支え、励まし、教育のメリットを繰り返し説き、教育的成果を後押しすることになる。また、悩みを抱えていたり、ずる休みしたり、教育を受けなくなる兆候に気づき、教師やその他関連する専門家に速やかに連絡することにもなる。

成果

- 家族が関わるほど、学校在籍や教育中断中も学びを続けるなど、**教育の継続性**が向上する⁷⁴。
- 家族の関わりに伴って、**学業成績や学習成果も向上する**⁷⁵。
- 世代間対話、PTAやグループ、男女クラブという形で家族が関わることで、ジェンダー平等に対するコミュニティの支持が高まった。

変革を可能にする主な要因

教育の重要性に重点を置いた、家族・保護者との啓発活動と連携作業

家族が教育の重要性を広め、子ども(特に女の子)の教育に熱心であれば、学校に通い続け、成果が出る可能性は高まる⁷⁶。保護者を対象とした啓発活動を実施したプロジェクトでは、大人がこうした価値観とメッセージを子どもに上手く伝えることに成功した⁷⁷。家族との連携活動としては、育児サークルや保護者教育で保護者が子どもの学習と発達を上手くサポートする方法を学ぶ形がある。

家庭でのサポート - 保護者が生徒の家庭学習を支援する。

特に学校が閉鎖されたり教育が中断されたりしている間に家庭学習ができる、そして学習のための時間を確保する必要があるという家庭の理解が得られることが学習成果の向上につながる。プロジェクト全体からわかった。家族が教育の重要性を理解した上で、子どもに宿題をさせたり、CAYに勉強や家事をする時間を決めさせたりすることを認めることが最も重要である。

事例研究

家庭でのサポート

ブルキナファソ、マリ、ニジェールの**PASS+プロジェクト(2016~2021年)**では、保護者が子どものやる気を引き出したり、家庭で学習を継続する手助けをするための支援を行うことで、中途退学率が低下し、生徒の自己学習や宿題の質が高まった。教師は、特にCOVID-19の休校期間中は、電話やテキストメッセージを通じて、確実に保護者に対する継続的なサポートを行うようにした。保護者が子どもをサポートし、意欲を高めるための支援を継続的に行うことが教育の継続性を高め、学習成果を向上させる。

事例研究

有害なジェンダー規範に取り組む強力なツールとしての世代間対話と男性クラブ

ジンバブエでは、SAGEプログラム(2019~2023年)で男性クラブが設立され、家族やコミュニティのジェンダー平等に対する支援を高めるために世代間対話を実施した。この取り組みでは、ユース男性とユース女性が家族やコミュニティの他のメンバーと一緒に活動するだけでなく、女の子特有の問題に対する共通の理解が深まることで彼女たちのエンパワーメントへとつながった。コミュニティの意思決定者との対話を通して、女の子と男の子はエージェンシーを発揮し、有害な慣行に取り組むための行動が何かを知ることができた。このプロセスで鍵となるのが男性の役割であった。プログラムに参加する女の子の父親と夫を対象とした男性クラブは、有害なジェンダーの態度や慣行にどう挑むか成人男性とともに考え、ポジティブな男性性、そして、肯定的なロールモデルが担う役割について考える貴重な機会になった。実施終了時には、男性からジェンダーの役割と女性が直面する障壁をより意識するようになったとの報告があり、平等の価値がしっかりと理解されるようになったと指摘された。

74 Ecuador's Country Strategy (2019-2023), the Educando en familia /Educating in the family (Ecuador 2019), TAWASOL (Egypt, 2018-2021), EQuIP2 an HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021)

75 MGCubedプロジェクト[29]は、より良い学習成果を得るためには、家庭でのサポートが必要であることを実証した。家庭で勉強を手伝ってくれる人がいた女の子は、休校中も英語の読み書き能力の維持向上をサポートしてもらえた。

76 Plan International Ecuador's country strategy, EQuIP2 and HPP (Burkina Faso, Mali, Guinea, Guinea Bissau, Cameroon, CAR, Niger, Jordan 2017-2021)

77 E.g., PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021)



長女の宿題を手伝う
Fabían, エクアドル

事例研究

最初の教育者としての保護者

エクアドルでは、子どもの教育者としての保護者とコミュニティが担う役割を強調するために、家族とコミュニティと協力して Educating in the family/Educando en Familia プロジェクト (2019年)が実施された。このプロジェクトを通して、子どもの成績や学習過程に対する保護者の関心と責任感が高まり、宿題を期限内に終わらせるようになり、家族同士の関係が良くなったと報告された。ワークショップで保護者は、育児(保護者としての役割を効果的に果たすための訓練)の具体的な内容について学んだり、保護者同士で話し合ったり、助言を求めたりすることができた。ワークショップを通して、参加者は子どもの「最初の教育者」としての能力を高める具体的な方法を見出した。

成功と持続可能性への主な障壁

- 保護者と保護者が非識字であると、子どもの家庭学習をサポートできない恐れがある⁷⁸。この問題は、成人教育に関わることであるため、CAYを対象とした教育プログラムの範囲を超えた活動が必要となる場合が多い。しかし、プラン・インターナショナルでは成人教育に関するこれまでの活動や、成人教育や生涯学習を専門とする組織との連携から得た知見を活かして、CAYを対象とした教育プロジェクトを補完することができる。
- 保護者は時間をやりくりして家事と有給の仕事をこなしていることが多いため、子どもの学習をサポートする時間も体力も限られている⁷⁹。これは、社会に深く根付いた問題で、包括的な解決策が必要になる。考えられるアプローチの1つは、現金給付などの経済的支援を家庭に提供し、保護者の労働負担を軽減することである。しかし、このアプローチは持続可能性の課題が伴うことを受け入れる必要があり、持続可能性の課題を踏まえた対応がきわめて重要になる。

78 MEESA Report on Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021)

79 Play Matters (Rwanda, 2020-2021)

有望実践例 9



テクノロジー

プラン・インターナショナルのいくつかのプログラムでは、教育プロジェクト、特に遠隔授業・学習アプローチを支援するために、テクノロジーが利用されてきた。ラジオ、衛星放送技術、WhatsAppのような携帯電話アプリ、「デジタル」技術ではないかもしれないが、このツールはしばしば他のテクノロジーを補完するものである。自宅学習パックの使用がプラスの影響をもたらすことについては、十分なエビデンスがある。

テクノロジーを含むプラン・インターナショナルの取り組みでは、主に以下の点が考慮された：テクノロジーは不平等を広げるのではなく、縮小させるものでなくてはならない。テクノロジーを使用しても教師は不可欠である。学習は可能な限り参加型で双方向で行わなければならない。そして、このプロセスで重要な役割を果たす保護者は、教師として、また学習のサポート役としての力を備える必要がある。

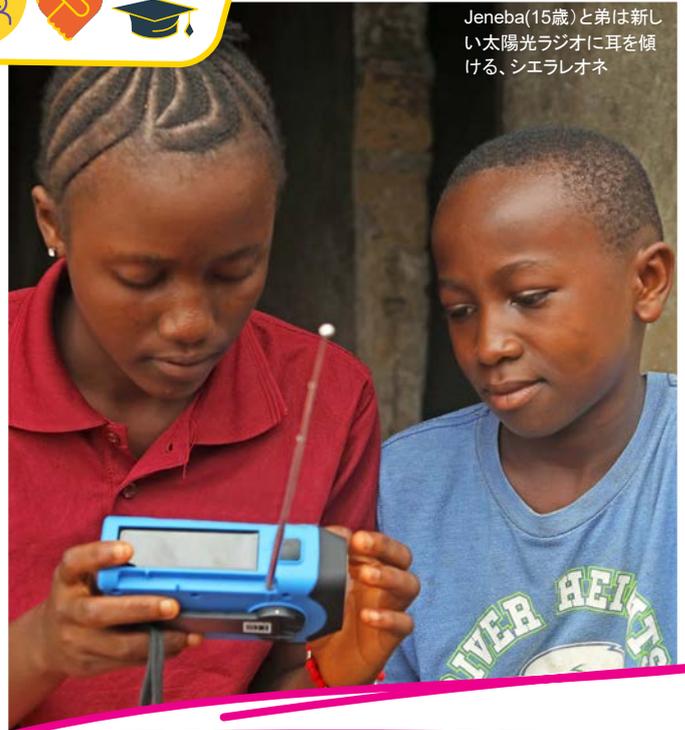
成果

- ラジオ、携帯電話、衛星放送などのテクノロジーは、混乱時、緊急時、危機下で遠隔学習と**教育の継続**を効果的に支えた革新的な取り組みの例である⁸⁰。
- テクノロジーはまた、規範の変革に向けた**啓発**（したがって、**ジェンダー・トランスフォーマティブな変革と包摂性の拡大**につながる）やレジリエンスも支えている⁸¹。
- テクノロジーは、教育者へのサポートと研修、ひいては**教育の質の向上に上手く活用された**^{82 83}。

変革を可能にする主な要因

生徒にラジオを配布し、授業を放送する。

テクノロジーの一番の成功例は、国やコミュニティが運営するラジオ⁸⁴で、学校閉鎖中の学習継続を主に支えた例：COVID-19⁸⁵。CAYは、数週間教育を受けられないと、その後再就学して教育を継続することが難しくなるため、学校閉鎖の間の一時的な期間に継続的な教育を支援するラジオその他の方法などの革新的技術は大きな効果をもたらすことができる。



Jeneba(15歳)と弟は新しい太陽光ラジオに耳を傾ける。シエラレオネ

実際、ラジオは、インターネットの普及率が低く、印刷教材を含む他の遠隔学習方法へのアクセスが困難な状況でも利用することができ、教育を継続する上で信頼性の高い効果的な手段となる。

ラジオ学習放送を紙教材で補完する。

ラジオ放送に付随する学習教材は、生徒の学習の復習や定着に役立った。それらがなければ、生徒がラジオ放送や遠隔学習放送について行くことは難しかった⁸⁶。例えば、ルワンダの *Play Matters at Home* プロジェクト(2020~2021年)では、回答者の59%が、教材パッケージとラジオ放送の内容の両方が子どもの学習に役立ったと回答している。

事例研究

家庭学習をサポートするラジオと問題集

シエラレオネでは、GATE-GECプロジェクト(2017~2021年)で、家庭学習を支援するためにラジオと問題集が配布された。プロジェクト参加者調査によると、ラジオ授業に参加できても問題集がないと、内容について行くのが難しかった。特に、CWD、孤児、子どもを持つ女の子は、何のサポートもなしに一人で勉強するのは難しいと感じた。この課題に対処するため、問題集が作成され、配布された。参加者のほぼ全員が、配布されたラジオと問題集は十分かつ適切で、役に立つと感じた。

80 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), and MEESA report (2020-2021)

81 SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021), Play Matters (Rwanda, 2020-2021)

82 ネパールでは、教師がダウンロードした教師研修ビデオ(オフラインでもアクセス可能)を視聴したり、自分の授業を録画したものを見返すために、スマートフォンが使用された。これは、その後に(指導と学習を改善するための)TSLA(教師の自習教室)も行うと特に効果的であった(Promoting Inclusive Education (PIE) and Safer School in Sindhuli(ネパール, 2018年))。

83 **Blend On!** 教育者の専門能力開発のために、対面学習と遠隔学習をどのように組み合わせるかを解説。

84 COVID-19パンデミック時・後の教育テクノロジーの役割に関する報告書[21]は、「プランのプログラム全体で、最も利用されたツールは国およびコミュニティが運営するラジオであった」と述べており、このメタ評価のために実施されたプロジェクト評価でも確認された。

85 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021)

86 Play Matters (Rwanda, 2020-2021), GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021)

コミュニティにラジオを配布し、ラジオ番組や討論会、啓発キャンペーンを実施する。

いくつかのプログラムでは、リスク削減やレジリエント教育⁸⁷、保護者教育(褒めて伸ばす教育法について保護者に教えるなど)⁸⁸、教育の重要性といった話題に関する意識啓発にラジオを使って成功した⁸⁹。発信されたメッセージには、教育を受けられない現状や高い中途退学率の根本原因(早すぎる結婚や児童労働が不就学につながっているなど)に関する情報も含まれていた。

遠隔学習を教師のサポートや保護者の関与で補完する。

成功した遠隔学習プログラム(ラジオ放送など)は、教師がサポート(放送内容の説明や子どもからの質問に答える)したり、保護者が関与する形で行われていた⁹⁰。プラン・インターナショナルの *report on the role of education technology during and post the COVID-19 pandemic* では、ファシリテーターがいて子どもが質問できるホットラインとも組み合わせると、ラジオ放送の効果が上がることが確認されている。他にも、コミュニティが運営する学習ハブや、同様のサポートを生徒が利用できる少人数の学習グループを設けることなどが考えられる。

携帯電話やスマートフォンを使って、教員研修を実施・支援する。

教師は、ダウンロードした教師研修のビデオ(オフラインでもアクセス可能)を見たり、自身や同僚の授業を録画したものを見返したりするために、スマートフォンやその他のモバイル機器を効果的に使用した。これは、指導と学習を改善するために、振り返りや学習サークルを行った場合に特に効果的であった⁹¹。教師は、自分の学習プロセスを把握しながら「いつでも、どこでも」学習できる点を高く評価した。

事例研究

CPDを成功に導く混合アプローチ

ジンバブエのSAGEプロジェクト(2019~2023年)では、COVID-19の影響で対面での集まりが禁止になり、CEのCPDセッションをWhatsAppに移行した。このアプローチでは、CEがWhatsAppでの遠隔研修の前に練習するオフラインの課題を組み込むことができた。WhatsAppの利用は、ピアサポートグループの設立にも役立った。COVID-19の規制が緩和されるにつれ、遠隔CPDは、対面セッションと継続的なオンラインサポートを統合した混合CPDモデルとなった。

事例研究

TSLA

ネパールでは、*PIE and Safer School in Sindhuli* プロジェクト(2018年)で、振り返りとTSLAによって指導と学習を改善するためにスマートフォンを活用した。TSLAのアプローチには以下が含まれる。1)ハードウェア:携帯型iPodを携帯学習機器とし、インターネット接続を必要としない視聴覚教材を使用。教師は、自身のペースで自習教材にアクセスし、必要に応じて再視聴することが奨励された。2)ソフトウェア:機器に読み込まれた教材、例えば、学習者中心アプローチや参加型アプローチの実演ビデオなどのコンテンツ。3)リーダー役の教師の進行で、学んだ教訓を共有し、ピアツーピア学習を促進する教師の振り返りサークル。

教師が保護者と連絡を取るためのWhatsAppやコミュニケーションアプリ。

一部のプログラムでは、子どもの学習をよりサポートするために教師と保護者の間でWhatsAppを使ってコミュニケーションを取っていた。教師は、学校で行われた授業の様子やワークシートの写真を撮り、子どもをどうサポートするかビデオで説明したものを保護者に送った。保護者は、完了したワークシートと子どもが取り組んでいる写真を返送し、教師は子どもの学習の進捗状況を把握することができ、保護者は子どものサポートにより積極的になることができた⁹²。

衛星放送技術

衛星技術は、支援の届きにくいコミュニティにも教育コンテンツを届けることができる。また、農村部に住む教師に質の高い教師研修を大規模かつ継続的に提供するためにも上手く利用されている。

事例研究

支援が届きにくいコミュニティのための遠隔教員研修

ガーナでは、*Train for Tomorrow* プロジェクト(2019~2021年)が衛星技術を利用して、アクラにあるスタジオから全地域にある20の放送大学に質の高い研修を提供した。このアプローチでは、1人の指導者が授業を放送し、複数の場所にいる数百人の教員を同じタイミングで、かつ双方向で指導することができる。研修を受ける教師は、指導者に質問したり、対話したりすることができる。優秀な教師1人で、このプロジェクトは400人の将来の教師を養成し、新任教師の数を増やしたり、遠隔地に住む教師にも指導を行うなど、さまざまなニーズに応えた。

87 SCRSSI (Bangladesh, Nepal, 2018-2021)

88 Play Matters (Rwanda, 2020-2021)

89 PASS+ (Burkina Faso, Mali, Niger, 2016-2021)

90 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), Plan International's report on the role of education technology during and post the COVID-19 pandemic, MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021), SAGE (Zimbabwe, 2019-2023)

91 "Promoting Inclusive Education (PIE)" and "Safer School in Sindhuli (Nepal, 2018)

92 TAWASOL project [16] and "Rawdai" project, as mentioned in the report [21]



COVID-19パンデミック時に挽回授業を放送するアクラのスタジオで、技術機器を操作するスタジオエンジニアのFrancisca、ガーナ

政府および関係当局との連携

政府の支援は、デジタルインフラや電波へのアクセス、接続性を確保するのに役立つ、特に農村部や支援の届きにくいコミュニティでのテクノロジー利用を促進する。また政府は、教育用ウェブサイトやアプリへの無料アクセスを提供したり、放送の放送時間を確保したりすることもできる⁹³。

事例研究

学習テレビと放送授業による放課後学習グループ

ガーナでは、MGCubedプロジェクト(2017-2021年)が政府と提携して、COVID-19パンデミック時にガーナ教育テレビ(GLTV)を立ち上げた。このプロジェクトは、放送インフラを利用して、GLTVで事前に録画された国営テレビ放送を通じて質の高い遠隔学習プログラムを提供し、生徒は配布されたデコーダーにアクセスすることができた。GLTVを視聴した女の子は数学の成績が高く、学校が再開したときの出席率も高かった。女子教育に前向きな保護者は、子どもがGLTVを視聴するのを応援する傾向が高く、GLTVを視聴して家庭内に学習をサポートする人がいることが、休校中の女の子の英語と数学の上達に役立っているというデータもある。アクラのスタジオから授業を再放送して、個別指導もできる放課後学習グループも設置された。これにより、生徒は個別のサポートを受けられるようになり、自身の学力に自信を持てるようになった。

民間部門との提携。

インターネット・サービス・プロバイダーとその他の関係者が提携できるようにつなぐことで、インターネットへのアクセスやテクノロジーを利用した機器の利用の問題を根本から克服できる可能性を示すエビデンスがかなり存在することを認識することが重要である。この戦略は、無料または低コストの教育コンテンツやツール(タブレット、携帯電話など)へのアクセスを加速させることができ、教育現場における重要な一歩となる⁹⁴。

成功と持続可能性への主な障壁

- **テクノロジーへのアクセス。**教育プロジェクト支援にテクノロジーを使用する場合、参加者が継続的かつ公平にアクセスできる方法を検討することが不可欠である⁹⁵。例えば、ジンバブエのSAGEプログラム(2019~2023年)で行われた携帯電話学習活動は、女の子が携帯電話を使うことが困難であるという報告があり(自由に使える携帯電話を個人で所有していないなど)、参加は限定的であった。さらに、アクセスするには、物理的に機器が使用できることと、遠隔学習会に参加する時間が必要だが、これは家事によって妨げられる可能性がある。この場合、メンターが個別に出向いてサポートしたり、少人数の対面学習グループの方が効果が上がる可能性がある。
- **テクノロジーや遠隔教育の有効性は、その状況次第である。**MEESA Report on Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19で、その一例として、ウガンダで、当初費用対効果の高い解決策と考えられていたラジオ授業が、予想ほど成功しなかったことが紹介されている。ラジオを使える子どもが少ないことや、一部の地域では電波が悪いことが大きな課題となった。その結果、プロジェクトはより地域に根ざしたアプローチへと舵を切って各村に小さなグループを設置。子どもが集まり、保護者からサポートを受けられるようにした⁹⁶。
- **機器の充電ができない、または機器の電池が切れる。**生徒に配布したラジオが電池切れになるという問題がある⁹⁷。解決策の1つとして考えられるのは、**太陽光で充電できる機器**を配布することである。
- **遠隔学習会は、参加者の都合のよい時間に開催されなければならない。**参加者がラジオを使ったプロジェクトに満足している一方で、学習会のスケジュールには改善の余地があるというエビデンスがあった証拠がある⁹⁸。学習者と保護者の都合をより的確に把握すれば、この問題に対処することができる。

93 COVID-19パンデミック中・後の教育テクノロジーの役割:プラン・インターナショナルへの提言

94 The MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021), SAGE (Zimbabwe, 2019-2023)

95 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021), The MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021), and Play Matters (Rwanda, 2020-2021)

96 The MEESA Evaluation of Adolescent Girls and Young Women's Continued Access to Education During COVID-19 (2020-2021)

97 GATE-GEC (Sierra Leone, 2017-2021)

98 例えば、Play Matters (ルワンダ、2020~2021年)では、最終調査の回答者のうち、放送時間に非常に満足したと回答したのは43%(n=51)にすぎなかった。回答者(保護者や家族)は概して、ラジオの内容については、子どもたちに活用できる楽しみながら教える方法を学ぶのに非常に役立つと回答していることから、改善の余地と可能性があることが示唆された。GATE-GECプロジェクト(シエラレオネ、2017-2021年)では、放送時間が限られていたため、カリキュラムを効果的に網羅することも難しかった。



Karelysは家族とともにベネズエラからペルーに移住した

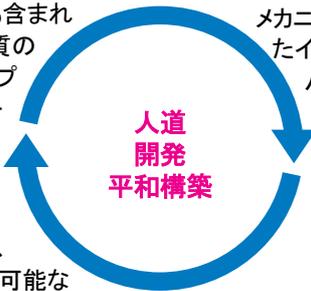
ともに強く - 一体化した総合的アプローチ

Nexus⁹⁹

ネクサス・アプローチとは、長期的な教育の継続を実現するために、現金支給や学習環境の改善といった緊急対応にとどまらず、一つ一つの取り組みが戦略的に拡大していくやり方を指す。特に緊急事態下での状況の変化に備えた対応も含まれる。つまり、**変化する状況への適応である**。これは、質の高い教授法を身につけた教師を育成し、その時々プログラムが生み出す以上の教育成果を持続する力をコミュニティが身に着ける(エンパワーメント)ことによって達成されることが多かった。

例えば**エジプト**では、TAWASOLプロジェクト(2018~2021年)で一時的な現金支給を行う一方で、**育児サークル、平和クラブ、教育研修**を設立し、持続可能な行動による長期的な発展を目指した。このプロジェクトの最終評価報告書は、「**教師は持続可能な教育システム変革の中核である**。既存の教師の能力を変革の基盤とすることは、**教育と学習を成功させるために不可欠であるが、それは出発点でもあり、そこから教育システムを作り直し、長期的な変化を下支えしていく必要がある**」と述べている。

緊急対応とともに教育継続の素となる活動を行う。緊急事態(自然災害や紛争)に陥った地域で行われたプログラムの一部では、**新たな災害に備えた対応策の改善や教員と学習環境の整備など、今後の混乱への備えを強化する取り組みが、緊急支援と組み合わせて行われた**。



ジンバブエでは、突発的な災害にタイムリーに対応することを目的としてZDRRMプロジェクト(2020~2021年)が実施されたが、その中には、**コミュニティや学校を基盤とした子どもの保護メカニズムの確立、一時的な避難所の提供、被害を受けたインフラの再建とともに、PSSIに関する教員の研修、ハザードマップの作成や学校の脆弱性評価、性的搾取や虐待の防止、さらに把握されたすべての保護事例の報告手順など、教育に関する長期的な対応も含まれていた**。

DRM

DRMは教育の継続において重要な役割を担っている。DRMの活動例としては、**学習施設の改善による学校の安全性の向上(災害発生直後に安全で学習しやすい環境を提供するTLCの設置や、CAYの感情的、心理的ニーズに応えるCFSの設置など)、食料配給、学用品キット、尊厳・キット、コミュニティの意識向上、学校防災管理システムの強化、リスク軽減に関する生徒、教師、学校長の知識の向上と意識改革などが挙げられる**。

99 Nexusとは、人道支援、開発、平和構築の活動が関連し合う一連のものとして行われる状況を指す。

大半のプログラムでDRMへの取り組みは行われており、災害に強い学校づくりと、災害への備えという点で大きな効果を上げた。南スーダンでは、Integrated Child Protection and Education Emergency Response Action(2019~2021年)が、紛争下に生きる子どものウェルビーイングの向上を目指して実施された。CFSでこころのサポートを行い、子どものレジリエンスを支えた。ベネズエラとペルーでは、Pasos Sosteniblesプロジェクト(2019~2021年)で、食料バウチャーの配布とCPIE活動を行い、COVID-19の蔓延と、女の子、男の子、思春期の若者、女性に対する暴力の防止を目指した。

CAYの生活のいくつかの側面/次元を一体化した取り組み

CAYの生活のいくつかの側面/次元(教育、衛生、人権、経済的スキルなど)を一体化した取り組みはCAYが教育を受け続けられるようにする上で非常に重要であるだけでなく、教育以外のニーズへの対応をすすめた。

 思春期の女の子に安全な場所をつくってMHM、GBV、SRHR、CSE、早すぎる結婚、HIVなどに関するニーズに基づいた支援を提供する活動は、教育プログラムとSRHRを一体化した取り組みだと言える。例えばジンバブエでは、18+ Ending Child Marriageプロジェクト(2016~2019年)でSRHRの知識が提供された。プロジェクト終了時には、大半の女の子が性と生殖に関する権利と、HIVやその他の性感染症にどうやって感染するのかわかるようになっていた。MEESA Report on Adolescent Girls and Young Women's continued access to education(2020~2021年)は、女の子とユース女性が学習を継続できるようにするには、WASHやSRHRなどの重要支援プロジェクトを一体化して進めることがきわめて重要であると述べた。

 教育に関わる職員とコミュニティ・グループが子どもの保護問題やGBVの予防と対応に関する研修を受けること、人身取引を防止するための監視メカニズムの確立、そして子どもの保護と学校関連のGBVに関する啓発を進めるための安全な空間づくりは、教育プログラムとPfVを一体化した取り組みだと言える。

例えば、シエラレオネでは、GATEGECプロジェクト(2017~2021年)で、ラジオ番組、コミュニティの啓発活動、電話、ポスター、村の貯蓄貸付組合の集まりを通じて保護に関する意識を喚起した。ネパールでは、Emergency Relief and Rehabilitation Supportプロジェクト(2015~2017年)で、地震後の緊急事態下での子どもの人身取引を監視・防止するための「チェックブース」を設置し、研修を実施した。これらは、子どもの人身取引の防止と削減に有効だったと言われている。エクアドルでは、家庭内暴力を減らし、親子間のコミュニケーションを改善するためにEducando en Familiaプロジェクト(2019年)でワークショップが開催された。



Fethia(13歳)は学校で早すぎる結婚の危険性に関する話し合いのリーダーを務める、エチオピア

 また、教育プログラムと乳幼児保育(ECD)を一体化した取り組みによって、保護者は育児に前向きかつ積極的に取り組むようになった。ルワンダでは、保護者とECD/乳幼児教育者にしっかりとした土台を築く力を身に付けさせることを目指してPlay Matters at Home projectプロジェクト(2020~2021年)を実施し、COVID-19の影響下も3~6歳の子どもの発達と学習が継続できるようにした。これは、「遊びを通して学ぶ」プログラムとラジオでの勉強会という形で行われた。インタビューに応じた保護者は、プログラムからヒントを得て、子どものための新しい遊びを思いつき、プログラムにある遊びと新しい遊びを交互に行うようになったと述べた。遊びが子どもの成長に果たす重要な役割について保護者の意識が高まったことが、プロジェクトの結果からわかる。また、「大人は子どもと一緒に遊ぶべきではない」という通念を変えることにもつながった¹⁰⁰。

 変革の積極的推進者としての女の子、男子、ユースを教育と一体化した取り組みについては、若い生徒がリーダーシップを発揮できるポジションに就くためのスキルを身に付け、教育に関する当局の決定に影響を与えるために自主的に組織化するという形で、その成果が如実に表れている。

 エクアドルのEvaluación Intermedia de la Estrategia de País FY19-FY23: Las Niñas Lideran el Cambioはまさに、ユースの雇用と起業のためのスキルと機会と教育プログラムを一体化した取り組みだと言える。この報告書では、奨学金を受けたユースが研修の成果を発揮して、家族で初めて専門職に就く多くの例が紹介されている。



謝辞

この実践例集は、プラン・インターナショナルの委託を受けて Ecorysが作成した「あらゆる状況における教育の継続性と包摂的で質の高い教育に関するメタ評価」に基づき、プラン・インターナショナルが作成した。本報告書は、Selina Komers、Valentina Uccioli、Isabel Dawson、Georgie Dayが共著し、Lilli Lovedayが品質保証を行った。メタ評価と実践例集は、プラン・インターナショナルを代表して、IQE実践リーダーの Barbara Scettriが管理し、IQEハブおよび政策・アドボカシーリーダーの Yona Nestel、IQEネットワークコーディネーターの Milena D'Atri、M&Eスペシャリストの Emma Newbattが技術支援を行った。IQEチームは、IQEコア・グループをはじめ、インタビューに時間を割いて本調査の設計、分析、検証を通じて意見を提供してくれたプラン・インターナショナルの全ての職員に感謝したい。

この文書はwww.forty6design.comのAlan Bingleがデザインした。

プラン・インターナショナルのIQE活動の詳細は、包摂的で質の高い教育 | プラン・インターナショナル(plan-international.org)を参照。

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と世界中の女の子の平等を推進するため、日々取り組みを続けています。私たちは、すべての子どもに力と可能性があると信じていますが、現実には貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されていることも少なくありません。そして、その影響を最も受けているのは女の子たちです。

独立した開発・人道団体として、プラン・インターナショナルは、子ども、思春期、ユース、支援者、パートナーとともに、女の子と弱い立場に置かれた子どもたちが直面している課題の根底にある原因に取り組んでいます。生まれてから大人になるまで、子どもたちの権利を守り、彼らが自らの力で危機や逆境に備え、対応できるよう支援するため、私たちはネットワークと知見を活かして、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進しています。

85年以上にわたり、子どもたちのために共に取り組んできたパートナーと協力の下、私たちは世界80カ国以上で活動を行っています。

Contact us

Plan International
Global Hub
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom
Tel. +44(0) 1483 755155/Fax: +44 (0) 1483 756505
 Plan-international.org
 Facebook.com/planinternational
 Twitter.com/planglobal
 Instagram.com/plan-international
 LinkedIn.com/company/plan-international
 Youtube.com/user/planinternationaltv

This Compendium
has been
financed by the
Government of
Ireland



Government
of Ireland
International
Development
Programme